

2021 年度

琉球大学島嶼地域科学研究所 所報

RIIS Annual Report 2021

---



島嶼地域科学研究所

Research Institute for Islands and Sustainability



# 目次 Index

|                                             |    |
|---------------------------------------------|----|
| 2021 年度所報の発刊にあたって                           | 1  |
| I. 組織                                       |    |
| 1. 組織構成図                                    | 5  |
| 2. 運営組織                                     | 6  |
| (1) 研究所会議                                   |    |
| (2) 所内委員会組織                                 |    |
| 3. 構成員                                      | 8  |
| (1) 専任・併任教員                                 |    |
| (2) 客員研究員                                   |    |
| (3) ポスドク研究員                                 |    |
| II. 研究事業等                                   |    |
| 1. 研究プロジェクト・事業                              | 11 |
| (1) 文部科学省概算要求プロジェクト                         |    |
| 『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』            | 11 |
| (2) 日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業         |    |
| 『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化』    | 15 |
| 2. 公募型共同研究・個人型共同利用                          | 16 |
| 3. 出版物                                      | 17 |
| (1) 書籍                                      |    |
| ・『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』                | 17 |
| (2) 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）                       |    |
| ・ <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> | 19 |
| ・『島嶼地域科学』                                   | 24 |
| 4. 研究成果の発信と普及                               | 26 |
| (1) セミナー・シンポジウム等                            | 26 |
| ・ RIIS レジリエンス&バイタリティプロジェクト・レクチャーシリーズ 2021   | 26 |
| ・ 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2022(TFIS2022)    | 27 |
| ・ レジリエンス&バイタリティ勉強会 2021                     | 28 |
| (2) 研究資源データベース                              | 29 |
| (3) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」                        | 30 |

### III. 教員の研究・教育活動と成果

- |                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| 1. 研究業績（専任・併任教員）                                      | 33 |
| 原著論文、書籍、その他（資料、解説、雑文、新聞・雑誌への投稿等）、<br>招待講演、学会発表、表彰・受賞等 | 33 |
| 2. 教育活動（専任教員）                                         | 45 |
| 学部教育、大学院教育、その他の教育活動                                   |    |
| 3. 社会連携（専任教員）                                         | 48 |
| 社会活動・地域貢献（学外団体委員等）、国際活動・国際協力、所属学会                     |    |

### IV. 外部資金等研究費獲得状況

- |              |    |
|--------------|----|
| 1. 科学研究費助成事業 | 51 |
| 2. その他の競争的資金 | 54 |
| 3. 受託研究      | 55 |

### V. 研究所運営

- |                                                     |    |
|-----------------------------------------------------|----|
| 1. 研究所会議                                            | 57 |
| 2. 所内委員会組織                                          | 60 |
| (1) 共同利用・共同研究運営委員会                                  |    |
| (2) 協議委員会                                           |    |
| (3) <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会 |    |
| (4) 『島嶼地域科学』編集委員会                                   |    |
| 3. 専任教員ミーティング                                       | 62 |
| 4. Academic Development                             | 64 |
| 6. 広報（HP・SNS）                                       | 65 |

### 付属資料

- |                                                 |  |
|-------------------------------------------------|--|
| 1. RIIS レジリエンス&バイタリティプロジェクト・レクチャーシリーズ 2021 ポスター |  |
| 2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2022(TFIS2022)ポスター   |  |
| 3. 国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」ポスター          |  |

## 2021 年度所報の発刊にあたって

2021 年度島嶼地域科学研究所所報の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

島嶼地域科学研究所（Research Institute for Islands and Sustainability）となって 4 年目を迎えたこの年、新型コロナウイルスの感染拡大状況は年度を通して続いたものの、私どもは自らの研究活動を島嶼地域の方々に配慮しつつ前進させることといたしました。研究目的で島々に入り、住民の方々に不安にさせることがあってはならない、ましてや私ども研究者が新型コロナウイルスの感染拡大に組み入れることがあってはならないと、2020 年度にたてた方針をかえることなく、私どもは島嶼地域研究者として自らを律し、島嶼地域における調査・研究活動を慎重に進めてまいりました。

2020 年度は実施を見送りました、学外の島嶼地域研究者との連携拡充を目的とした公募型の共同利用・共同研究事業（2018 年度～）のうち、本研究所を拠点に沖縄における研究を個人で進める「個人型共同利用」事業を 2021 年度に再開し、3 件の研究課題を採択させていただきました。この取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すもので、本研究所の事業のなかでも非常に重要な位置づけにあります。2022 年度以降には 3 人以上の研究グループによる「公募型共同研究」も再開できることを願っています。

本研究所として、自律的・持続的島嶼地域社会の形成に寄与すべき、新型コロナウイルス感染拡大状況下においても実行可能な研究事業は、躊躇しないどころか、積極的に推し進めてまいりました。まず 2019 年度に開始しました文部科学省機能強化経費による事業「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」（2019～2021 年度）が最終年度を迎えました。学内の多くの研究者の参加のもと、複数の研究ユニット（「防災」「コミュニティ」「軍事基地と環境」「歴史清算」「保健」）を設置し、これまでに収集してきた研究データや島嶼に赴かず遠隔で可能な調査によって得た情報によって多様な研究を推進し、プロジェクトの成果を英文査読誌 *Okinawan Journal of Island Studies* 3-2 や和文書籍『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』にまとめ公開しました。

また 2020 年度に新たな研究プロジェクトとして始めました「対話型アーカイブズによる新たな『島嶼の知』の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」（日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」（領域開拓プログラム）、2020～2022 年度）は、2 年目を迎えました。これは、研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動態的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねていくものです。

2019 年度に発行を開始した *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* と和文誌『島嶼地域科学』は広く国内外から投稿を受け付ける査読誌です。前者は世界の著名な島嶼地域研究者をアドバイザーボードに迎え、2021 年度 3 月に、SICRI（Small Island Cultures Research Initiative）の研究者との共同編集で発行した第 3-1 号と、上記第 3-2 号を発刊しました。和文誌『島嶼地域科学』は 2021 年度中に論文投稿と査読を進め、2022 年 6 月には第 3 号がオンラインジャーナルとして J-STAGE にて刊行される予定です。両誌とも電子版で公開しており、世界に向けて発信しています。

2021 年度は専任教員 6 名（教授 3 名、准教授 1 名、講師 1 名、特命助教 1 名）で組織運営にあたりました。また、他学部から本研究所の研究や運営に参画している 26 名（2021 年度）の併任教員の尽力によって、研究所の活動は支えられています。こうした全学的な協力体制によって、研究所としての実績

を積み重ねることができています。

多様で複雑な島嶼という地域を研究対象とするにあたり、トランスディシプリナリー（超学際）な研究態度が必要と考えています。複数の学問分野の理論や方法論を統合し、さらに非専門家（地域住民等）の島嶼地域における経験知や生活知をも統合していくことで、島嶼の実際と将来を追究できると考えます。多分野・多組織による連携を通して、「島嶼地域科学」の確立に向けて邁進する所存です。引き続き島嶼地域科学研究所に対するご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2022 年 10 月 1 日

国立大学法人 琉球大学  
研究推進機構 島嶼地域科学研究所  
所長 波多野 想



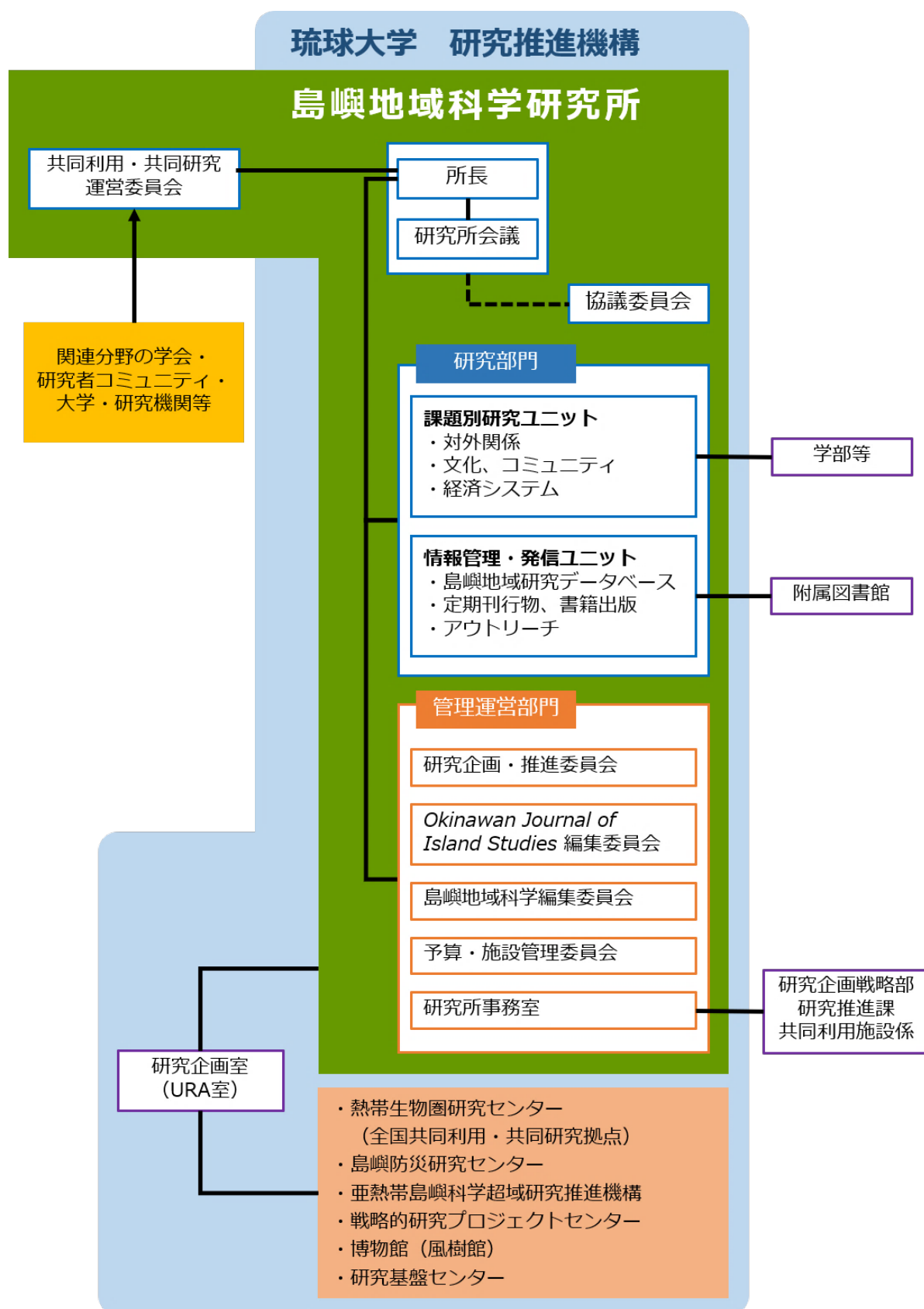
# I . 組 織

---

1. 組織構成図
2. 運営組織
3. 構成員



## 1. 組織構成図



## 2. 運営組織

### (1) 研究所会議

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 議長  
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授）  
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授）  
喜納 育江（国際地域創造学部／教授）  
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）  
佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所／特命助教）  
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）  
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）  
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）

### (2) 所内委員会組織

#### 共同利用・共同研究 運営委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長  
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 2号委員  
酒井 一彦（琉球大学熱帯生物圏研究センター／教授） 3号委員  
久万田 晋（沖縄県立芸術大学附属研究所／教授） 4号委員  
須藤 健一（堺市博物館／館長） 4号委員  
中俣 均（法政大学文学部／教授） 4号委員

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

#### 協議委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長  
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授） 2号委員  
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 3号委員  
本村 真（人文社会学部／教授） 4号委員  
金城 尚美（国際地域創造学部／教授） 4号委員  
花木 宏直（教育学部／准教授） 4号委員  
傳田 哲郎（理学部／教授） 4号委員  
小林 潤（医学部／教授） 4号委員  
長山 格（工学部／准教授） 4号委員  
大田 伊久雄（農学部／教授） 4号委員

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

**Okinawan Journal of Island Studies 編集委員会**

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 編集長  
波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 編集委員  
宮國 薫子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員  
山里 絹子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員  
Timothy Kelly（名桜大学非常勤講師） 編集委員

**『島嶼地域科学』編集委員会**

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 編集長  
宮内 久光（国際地域創造学部／教授） 編集委員  
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授） 編集委員

### 3. 構成員

#### (1) 専任・併任教員

| 役職/氏名                            | 専門分野                     | 所属/職名          |
|----------------------------------|--------------------------|----------------|
| <b>所長 (Director)</b>             |                          |                |
| 波多野 想 (So Hatano)                | 建築史学・文化遺産学・<br>ランドスケープ研究 | 島嶼地域科学研究所/教授   |
| <b>副所長 (Associate Director)</b>  |                          |                |
| 藤田 陽子 (Yoko Fujita)              | 環境経済学                    | 島嶼地域科学研究所/教授   |
| <b>専任教員 (Full-time Faculty)</b>  |                          |                |
| 鳥山 淳 (Atsushi Toriyama)          | 沖縄現代史                    | 島嶼地域科学研究所/教授   |
| 宜野座 綾乃 (Ayano Ginoza)            | アメリカ研究・ジェンダー学・<br>軍事主義   | 島嶼地域科学研究所/准教授  |
| 山極 海嗣 (Kaishi Yamagiwa)          | 考古学・人類学                  | 島嶼地域科学研究所/講師   |
| 佐藤 崇範 (Takanori Sato)            | アーカイブズ学                  | 島嶼地域科学研究所/特命助教 |
| <b>併任教員 (Concurrent Faculty)</b> |                          |                |
| 池上 大祐 (Daisuke Ikegami)          | 西洋史学・地域史と戦争記憶            | 国際地域創造学部/准教授   |
| 石原 昌英 (Masahide Ishihara)        | 社会言語学・言語政策               | 国際地域創造学部/教授    |
| 稲村 務 (Tsutomu Inamura)           | 社会人類学・比較民俗学              | 国際地域創造学部/教授    |
| 大島 順子 (Junko Oshima)             | 地域・環境教育論                 | 国際地域創造学部/准教授   |
| 大湾 知子 (Tomoko Owan)              | 成人・がん看護学                 | 医学部/准教授        |
| 瀬口 浩一 (Koichi Osoguchi)          | 財政学                      | 国際地域創造学部/教授    |
| 越智 正樹 (Masaki Ochi)              | 観光社会学・農村社会学・地域社会学        | 国際地域創造学部/教授    |
| 漢那 洋子 (Yoko Kanna)               | 光化学・有機物理化学               | 理学部/准教授        |
| 喜納 育江 (Ikue Kina)                | アメリカ文学・ジェンダー研究           | 国際地域創造学部/教授    |
| 金城 ひろみ (Hiromi Kinjo)            | 中国語学                     | 人文社会学部/准教授     |
| 小林 潤 (Jun Kobayashi)             | 国際保健                     | 医学部保健学科/教授     |
| 杉村 泰彦 (Yasuhiko Sugimura)        | 農業経済学                    | 農学部/准教授        |
| 鈴木 規之 (Noriyuki Suzuki)          | 国際社会学                    | 人文社会学部/教授      |

|                            |                |                  |
|----------------------------|----------------|------------------|
| 淡野 将太 (Syota Tanno)        | 教育心理学          | 教育学部学校教育／准教授     |
| 當山 奈那 (Nana Tohyama)       | 琉球語学           | 人文社会学部／准教授       |
| 豊見山 和行 (Kazuyuki Tomiyama) | 琉球史学           | 人文社会学部／教授        |
| 内藤 重之 (Shigeyuki Naito)    | 農業経済学          | 農学部／教授           |
| 名護 麻美 (Asami Nago)         | 文化人類学          | グローバル教育支援機構／特命講師 |
| 野入 直美 (Naomi Noiri)        | 社会学            | 人文社会学部／准教授       |
| 廣瀬 孝 (Takashi Hirose)      | 自然地理学・水文地形学    | 国際地域創造学部／教授      |
| 古川 卓 (Takashi Furukawa)    | 臨床心理学          | グローバル教育支援機構／教授   |
| 宮内 久光 (Hisamitsu Miyauchi) | 人文地理学          | 国際地域創造学部／教授      |
| 宮里 厚子 (Atsuko Miyazato)    | ヨーロッパ文化 フランス文学 | 国際地域創造学部／准教授     |
| 本村 真 (Makoto Motomura)     | 地域福祉学          | 人文社会学部／教授        |
| 矢野 恵美 (Emi Yano)           | 刑法             | 大学院法務研究科／教授      |
| 山里 絹子 (Kinuko Yamazato)    | アメリカ研究         | 国際地域創造学部／准教授     |

## (2) 客員研究員

| 氏名                         | 所属                                    | 職名               | 受入教員   | 期間                  |
|----------------------------|---------------------------------------|------------------|--------|---------------------|
| Daniel Akihiro Iwama       | University of California, Los Angeles | Doctoral Student | 宜野座 綾乃 | 2021/4/1-2021/12/31 |
| 我部 政明 (Masaaki Gabe)       | 琉球大学                                  | 名誉教授             | 藤田 陽子  | 2021/4/1-2022/3/31  |
| 狩俣 繁久 (Shigehisa Karimata) | 琉球大学                                  | 名誉教授             | 當山 奈那  | 2021/4/1-2022/3/31  |

## (3) ポスドク研究員

| 氏名                    | 所属                | 職名      | 受入教員   | 期間                  |
|-----------------------|-------------------|---------|--------|---------------------|
| 古波藏 契 (Kei Kohagura)  | 琉球大学<br>島嶼地域科学研究所 | ポスドク研究員 | 宜野座 綾乃 | 2021/8/1-2022/3/31  |
| 土井 智義 (Tomoyoshi Doi) | 琉球大学<br>島嶼地域科学研究所 | ポスドク研究員 | 宜野座 綾乃 | 2021/10/1-2022/3/31 |

## Ⅱ．研究事業等

---

1. 研究プロジェクト・事業
2. 公募型共同研究・個人型共同利用
3. 出版物
4. 研究成果の発信と普及

## 1. 研究プロジェクト・事業

### (1) 文部科学省 概算要求プロジェクト

#### 『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』

(2019～2021 年度)

\*本プロジェクトの総括に関しては、2022 年 3 月発刊の報告書をご覧ください。

本プロジェクトは、正式名称を「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」とし、文部科学省特別経費プロジェクトとして、2019 年度から 2021 年度まで行った研究プロジェクトである。取り組み概要は、当研究所がこれまでの取組で体系化した自律型島嶼社会の創生に向けた「島嶼地域科学」国内外の島嶼地域研究機関との連携実績を基盤とし、「レジリエンス」と「バイタリティ」に着目した共同研究を推進し「島嶼地域科学」の国際的共同研究拠点形成を目指してきた。これらの概念を学際的な課題検証の共通の切り口とし、現在国内外の島嶼地域が抱える特殊な課題を多分野融合的な視点から検証することで、方法論の構築を図り、国際的にも通用するモデルとして発展させることを目標とした。

本事業における「レジリエンス」「バイタリティ」とは、島嶼の主体性を保持し、地域の文化や共同体の存続を可能にしてきた場所の持つ力であると同時に、その場所に生きる人々の力と広く定義した。本事業では、この力を、1 変化に対応する力、2 既成概念にとらわれずに限られた状況の中で最良の選択が何かを判断する力、3 島嶼の主体性を担保する力、と捉え、島嶼地域においてこれらがいかに発動されるかという過程に着点をおき、学問的に検証することを目標としつつ調査、研究を進めてきた。これらを実行するにあたり、当研究所を始め、国際地域創造学部、人文社会学部、工学部、医学部、教育学部、グローバル教育支援機構、熱帯生物圏研究センターの 8 学部部局の教員で構成する、5 つの研究ユニット、防災、コミュニティ、保健、軍事と環境、歴史清算を形成した。また、これらに加え、アーカイブズやポストドク研究員、及び学外共同研究者 1 名を加えた計 30 名の研究者に参加していただいた。

プロジェクト開始年から、世界的なコロナ感染症パンデミック禍におかれ、国内では水際対策や時短営業、資料施設の休館などにより、国内外の移動や人との接触を伴う調査が実行できず、資料取り寄せのための郵便にも影響を与えた。これらの状況は、本プロジェクトの核である、島嶼住民との対話、現地での資料収集や調査による、島嶼住民のエイジェンシーに着眼した島嶼研究の方法論の構築をするという計画の見直しを余儀なくした。困難な状況に柔軟に対応すべく、プロジェクトでは、オンライン会議システムを利用した国内外の研究者との研究交流、議論の深化および発信に力点を置いて研究を進めた。その取り組みの一つであるレクチャーシリーズでは、プロジェクトメンバーが、国内外から研究者や地域の関係者をお招きし研究ネットワークの拡充に寄与することができたと感じている。プロジェクト期間中の 3 年間で、計 14 回の講演を開催し、国際的な島嶼研究の動向を学び、多分野におけるレジリエンスの概念やアプローチに関する議論や意見交換を行った。招聘した研究者の出身地や研究対象島嶼は、沖縄、日本、グアム、ハワイ、ギリシャ、マルタ、アメリカ、マーシャルアイランド、台湾、韓国、中国と多様なもので、学問分野も歴史学、地理学、経済学、医学、ジャーナリズム、アジアアメリカ研究、エスニックスタディーズ、文学、政治学、考古学、ジェンダー学と多分野に渡り、島嶼研究の重要な側面としての多分野間の学問交流が行えたことは意義深かったと考える。また、本レクチャーシリーズを介して、研究の交流に留まらず、今後につながる共同研究の可能性を見出し、島嶼研究のネッ

トワークの構築に貢献した。

また、プロジェクトメンバー間の研究交流を行った計 20 回の勉強会では、研究で抽出された課題、論点、分析方法などを共有する機会となり、多分野の研究手法や分析方法に関して分野横断的に知見の交流を行った。特に、人文社会学系の分野を中心に研究を推進する本所が中心となり実施したプロジェクトにおいて、教員が文理の垣根を越え、本学熱帯生物圏研究センターや、工学部、理学部、医学部の教員が「島嶼」という共通項を持ち共同プロジェクトに取り組めたことは、本プロジェクトの一つの大きな成果だったのではと考える。

また、学内の研究者間の交流にとどまらず、島嶼地域における若手研究者の育成にも力を入れ、プロジェクト期間を通して 5 名のポストドク研究員を採用し、調査、研究、発信、交流の支援を行った。2020 年度と、2021 年度には、ポストドク研究員が実行委員となり国際若手研究大会を開催した。前半基調講演、後半若手研究者の報告という構成で開催されたそれぞれの大会は、2020 年度にサンフランシスコ州立大学のウェスリー・ウエウンテン先生、2021 年度には、カリフォルニア大学サンディエゴ校のウェンディ・マツムラ先生を基調講演者としてお招きし、ご講演いただいた。若手研究者の海外の沖縄研究者への着眼により、琉球沖縄を拠点とした今後の国際的な島嶼研究の可能性が若手研究者と示唆する機会となった。2 部の研究発表では、国内外の大学の博士課程で研究する若手研究者を中心とした研究発表と交流を行った。大会に集った若手研究者同志、また若手研究者と弊所との今回の新しい出会いが、将来の島嶼地域研究の交流に繋がれば嬉しく思う。

プロジェクトの集大成として、さった 2 月 23 日に「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」と題し、国際シンポジウムを開催した。シンポジウムの第一部では、ニューキャッスル大学島嶼研究学部教授のジョナサン・ピュー先生と、琉球大学名誉教授土屋誠先生に基調講演を賜った。Pugh 先生は、“Anthropocene Islands: A Critical Agenda for Island Studies”と題するご講演で、人新世における島嶼の持つ意味に関してレジリエンスを理論的概念として議論した。また、「世界自然遺産と自然絵の恩返し」と題したご講演で、土屋先生は、2021 年 7 月に琉球列島の 4 島が世界自然遺産に登録されたことが地域住民としての自然への恩返しの一つの手段であるとし、人間と自然の共存やアクションの重要性に関してご講演した。第 2 部のラウンドテーブルでは、プロジェクトメンバーを中心とした研究者により、本プロジェクトから見えた課題や島嶼研究の今後の展望に関してディスカッションを持ち、基調講演者およびお越しいただいた木暮一啓研究担当理事からご助言等を拝受いたしました。ご助言に関してファシリテーターを努めた波多野想所長は、引き続き弊所の課題として議論する意向を述べた。

本事業の大きな成果物として、次の 2 点を無事出版することができた。まず、一点目は、当所が発刊する国際学術誌 *Okinawan Journal of Island* Volume 3, Number 2 (March, 2022) に発表した、プロジェクトメンバー 16 名による研究成果論文集である。2 点目は、本プロジェクトメンバーの池上大祐准教授と波多野想教授が編集した『島嶼地域科学を拓く一問い直す環境・社会・歴史の実践』（ミネルヴァ書房、2022 年）の出版である。本書は、大学生や広く一般の方にも読んでもらえるような構成となっております。

プロジェクトに尽力されたメンバーの皆様、ご協力いただきました学内外の研究者、関係者、そして地域の方々に深くお礼を申し上げますと共に、引き続きご教示、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 研究体制：プロジェクトメンバー

### プロジェクトリーダー

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）

### プロジェクト内ユニット構成

#### ○防災ユニット

藤田 陽子（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

伊東 孝（工学部／教授）

Castro Juan Jose（工学部／教授）

豊見山 和行（人文社会学部／教授）

渡辺 信（熱帯生物研究センター／准教授）

前田 勇樹（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

#### ○保健ユニット

小林 潤（ユニットリーダー 医学部／教授）

當山 裕子（医学部／講師）

高原 美鈴（医学部／助教）

斉藤 美加（医学部／助教）

和氣 則江（保健学研究科／講師）

竹内 理恵（保健学研究科／特命講師）

#### ○コミュニティユニット

波多野 想（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

喜納 育江（国際地域創造学部／教授）

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）

山里 絹子（国際地域創造学部／准教授）

森 啓輔（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

#### ○軍事と環境ユニット

池上 大祐（ユニットリーダー 国際地域創造学部／准教授）

山本 章子（人文社会学部／准教授）

淡野 将太（教育学部／准教授）

名護 麻美（グローバル支援機構／特命講師）

#### ○歴史清算ユニット

鳥山 淳（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

呉 世宗（人文社会学部／教授）

#### ○アーカイブズ担当

佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所／特命助教）

## 事業予算額

2019 年度 13,220 千円

2020 年度 13,220 千円

2021 年度 13,220 千円

(2) 日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化』  
(2020～2022 年度)

## 事業概要

本研究所は、日本学術振興会の『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム）に採択され、「対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」の取り組みを 2020 年度より開始した。日本学術振興会の同事業は、「①諸学の密接な連携によりブレイクスルーを生み出す共同研究、②社会的貢献に向けた共同研究、③国際共同研究を推進するため」のものであり、なかでも領域開拓プログラムは「異なる学問分野の研究者の参画を得て、新たな研究領域への予想外の飛躍をもたらすような課題の追求や方法論の継続的な改良を目指す」ものである（詳細は、<https://www.jsps.go.jp/kadai/>を参照のこと）。

これに対して、本研究所は島嶼の劣位性ではなく、多様性・結節性・独自性という優位性概念によって島嶼に新たな価値観を付与することで、従前の島嶼地域研究にパラダイムシフトをもたらし、地域課題を自律的に解決し持続的に発展するための学術的方法論を創出することを目指す。特に、研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動態的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねていく。

## プロジェクトメンバー

波多野 想（島嶼地域科学研究所/教授）  
佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所/特命助教）  
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所/教授）  
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所/教授）  
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所/准教授）  
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所/講師）

## 事業予算額

2020 年度 2,847 千円  
2021 年度 5,850 千円  
2022 年度 5,850 千円

## 2022 年度以降の展開

- 宮古島狩俣地区において地域住民および教育委員会と協働し、当地における研究データの収集とアーカイビング活動を進める。
- 人文学・社会科学における研究データ管理のあり方を検討する。
- 研究成果を学会等で発表する。

## 2. 公募型共同研究・個人型共同利用

島嶼地域科学研究所では、島嶼地域の研究に取り組む研究者とそのアイデアを広く募り、多様な島嶼地域研究を展開するための共同利用・共同研究を推進している。2016年度に公募型共同研究（複数名による共同研究、国内および海外）を開始し、加えて2018年度より個人型共同利用（個人による調査研究）を進めてきた。これらの取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すものである。2020年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み募集を見合わせたが、それまでに、公募型共同研究総計26件（継続を含む）、個人型共同利用総計5件を採択してきた。

2021年度において、新型コロナウイルス感染状況は予断を許すものではなかったものの、学外研究者に本研究所を拠点に研究活動に従事していただく個人型共同利用（個人による調査研究）の実施は可能と判断し、その募集のみ再開した。その結果、3件の研究課題を採択した。

### 2021年度採択課題一覧

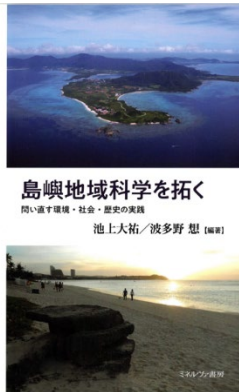
#### 個人型共同利用

1. 「離島医療の確保に向けた自治体間連携と制度設計についての政策研究」  
関 耕平（島根大学）
2. 「戦後沖縄の精神医療政策史—公文書資料を手がかりに」  
橋本 明（愛知県立大学）
3. 「医療人文学的研究からみる沖縄の祭儀における本草と病の相関性」  
毛利 美穂（関西大学）

### 3. 出版物

#### (1) 書籍

池上大祐・波多野想（編）『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』ミネルヴァ書房  
2022年3月30日発行 ISBN978-4623093731



本書は、文部科学省特別経費プロジェクト「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」（2019年度～2021年度）の成果として出版した。島嶼地域の過去・現在・未来を俯瞰するための視座を35集め、琉球大学発の新しい学際的研究領域「島嶼地域科学」をより深く理解してもらうことを目指して編纂した。また読者として、研究者のみならず、島嶼地域の未来を創造する一般の方々も想定した。

#### 【目次】

はしがき（池上大祐・波多野想）

#### 第I部 「島嶼地域科学」とは何か

- 1 島嶼を探究する（波多野想）
- 2 「地域」という主体性（池上大祐）
- 3 ヤポネシア論（池上大祐）
- 4 アイランド・ネットワーク（宜野座綾乃）
- 5 海域ネットワーク（山極海嗣）
- 6 レジリエンス（宜野座綾乃）
- 7 島嶼空間と日常の実践（波多野想）
- 8 アーカイブズ（佐藤崇範）

#### 第II部 「巡り合うこと」から考える

- 9 コミュニティ創造の基盤としての記憶（波多野想）
- 10 つながる人々（宜野座綾乃）
- 11 「コンタクトゾーン」としてのハワイ——沖縄系移民の視点から（山里絹子）
- 12 オキナワ・ディアスポラにおける Irei no Hi の実践（山里絹子）
- 13 アイランド・フェミニズム（宜野座綾乃）
- 14 文学とコミュニティ（喜納育江）
- 15 資源としてのランドスケープ（波多野想）
- 16 島の文化遺産（波多野想）

### 第Ⅲ部 「生存すること」から掘り下げる

- 17 地震と津波災害 (Castro Juan Jose)
- 18 防災対策とソーシャルキャピタル (當山裕子)
- 19 マングローブと防災 (渡辺信)
- 20 天然痘 (前田勇樹)
- 21 八重山のゼロマラリア (齊藤美加)
- 22 琉球在来豚アグーの復活と島嶼ブランド化 (名護麻美)
- 23 キャリング・キャパシティ (環境容量) (藤田陽子)
- 24 生態系サービス (藤田陽子)
- 25 ヘルシーアイランド (健康な島づくり) (小林潤)

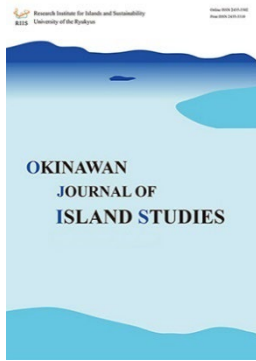
### 第Ⅳ部 「向き合うこと」から始める

- 26 太平洋核実験 (池上大祐)
- 27 非核兵器地帯 (池上大祐)
- 28 南西防衛 (山本章子)
- 29 基地公害 (森啓輔)
- 30 トラウマとPTSD (淡野将太)
- 31 PTSDと戦争 (淡野将太)
- 32 戦争の記憶の継承 (山本章子)
- 33 戦没者の遺骨収集 (山本章子)
- 34 軍隊と島嶼住民 (鳥山淳)
- 35 他者の歴史を救済すること (呉世宗)

あとがき (池上大祐・波多野想)

## (2) 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）

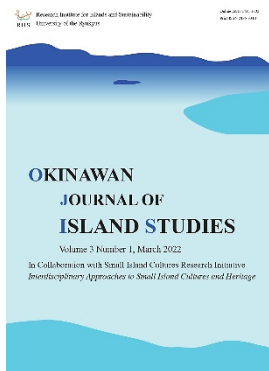
### **Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)**



本誌は、人文・社会科学を中心とした国内外の島嶼や島嶼性に着目した英語による学術論文と書評を募集している。専門分野ごとに国内外の査読者による厳密な査読の後、優れた論文を掲載することで、島嶼地域科学の学術分野への国際的な寄与を目指している。フォーラムでは、インタビュー、研究ノート、詩や散文も掲載する。また、冊子体に加え、より多くの読者との議論の場を形成する目的で、オープンアクセスにより同時公開をおこなった。なお、投稿募集や投稿規定については島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している (<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis>)。

### **Okinawan Journal of Island Studies (OJIS), Vol. 3, Number 1 (March 2022)**

Edited by Ayano Ginoza, Editor for the Okinawan Journal of Island Studies, Evangelia Papoutsaki and Meng Qu, Guest Editors & Co-convenors of the Small Island Cultures Research Initiative



2022 年 3 月に発行された Vol. 3, Number 1 Special Issue on Interdisciplinary Approaches to Small Island Cultures and Heritage は、Small Island Cultures Research Initiative(SICRI)とのコラボレーションで編集した。OJIS 編集長の宜野座に加え、SICRI から Dr. Meng Qu と Dr. Evangelia Papoutsaki が編者をおこなった。目次は以下の通りである。なお、本号については Web 上で閲覧が可能である ([https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis/ojis\\_3\\_1](https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis/ojis_3_1))

### **Editors' Note**

#### **Island Cultures and Heritage: Open and Continuous Reflections**

Ayano Ginoza, Meng Qu, Evangelia Papoutsaki

### **Paper**

#### **Enoshima: Signifying Island Heritage Across Space and Place**

Henry Johnson

#### **Island Revitalization and the Setouchi Triennale: Ethnographic Reflection on Three Local Events**

Shiu Hong Simon Tu

**Augmenting Small-Island Heritage through Site-Specific Art: A View from Naoshima**

A. D. McCormick

**Contemporary Island Historiography and Environmental Codifications of Architecture: The Art Museum on Naoshima**

Alia Hamadeh

**Marine Cultural Heritage in Lý Sơn Island, Vietnam: Current Situation and Future Challenges**

Hoang Van Nguyen, Thanh Van Vo, Tuyen Dai Quang

**Defining “Tao-Style” Equality of Fishing Allocations as the Small-Scale Fishing Cultural Heritage in Lanyu, Taiwan**

Shenglin Elijah Chang and You-Ren Chung

**Sacred World Heritage Sites and Their Representations within Travel Information Sources Aiming at International Tourists**

Pascal von Beuningen

**“Text Messages from the Grave”: Connecting the Mobile Phone with the Samoan Concept of *Va Tapuia***

Marion Muliaumaseali'i

**Beyond Words to Find Words: Creative Hermeneutical Dialogue During COVID-19**

Joshua Nash, Fiona Sprott, Jason Sweeney

**Book Reviews**

**Pacific: An Ocean of Wonders**

Evangelia Papoutsaki

**The Challenges of Island Studies**

Meng Qu

**Scotland and Islandness: Explorations in Community, Economy and Culture**

Sarah R. MacKinnon

**Nenes' Koza Dabasa: Okinawa in the World Music Market**

Junko Konishi



## **Identity, Language and Belonging on Jersey: Migration and the Channel Islands**

Henry Johnson

### **Forum: Miduri**

## **Gender, Migration, and Post-Disaster Communities: Call for Intersections and Dynamics of Local and Global Connections in Asia-Pacific Island Countries**

Glenda Tibe Bonifacio

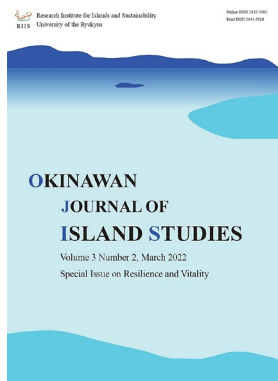
## **Windrows: Entangled Negotiations with Fish, Wind, and Time in Coastal Newfoundland/Ktaqmkuk**

Maggie J. Whitten Henry

## **Taking the Trouble**

Philip Hayward

### **Okinawan Journal of Island Studies (OJIS), Vol. 3, Number 2 (March 2022)**



2022 年 3 月に発行された Vol. 3, Number 1 レジリエンスとバイタリティに関する特別号は、弊所が 2019 年度から 2021 年度までの 3 年間、学内の研究者を中心に編成した学際的分野からの研究成果を発表した。OJIS 編集長宜野座と同大学教授の喜納育江が編者として編集をおこなった。目次は以下の通りである。なお、本号については Web 上で閲覧が可能である ([https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis/ojis\\_3\\_2](https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis/ojis_3_2))

### **Introduction**

## **Cultures of Resilience and Vitality in the Okinawa Islands and Beyond**

Ayano Ginoza

### **Part I: Island Communities**

## **Early Human Cultural and Communal Diversity in the Ryukyu Islands**

Kaishi Yamagiwa

## **Remembering the Battle of Okinawa and Reshaping Community War Narratives: The Commemoration of Irei no Hi in the Okinawan Diaspora in Hawai'i**

Kinuko Maehara Yamazato

## **Okinawa Islands Epistemologies in the Women's Unai Festival of 1985**

Ayano Ginoza

**Indigenous Women's Storytelling in Resistance and Resilience: The Stories of Liglav A-Wu and Tami Sakiyama**

Ikue Kina

**Cultural Heritage and Its Authenticity: Spatialization of Local Pasts through Making Models in Jinguashi Mine, Taiwan**

So Hatano and Hui-ju Lin

**Part II: Overcoming the Past**

**“Overcoming the Past” Concerning the War Experiences on Kumejima**

Atsushi Toriyama

**Historical Salvation and Human Recovery: The Massacre of Koreans on Kumejima**

Sejong Oh

**A Descriptive Review of Research on Peace Education Concerning Okinawa**

Syota Tanno

**Part III: Health and Life**

**Dealing with Precarity in the Hog Industry and Resilience on Okinawa Island: A Case Study of the 2020 Classical Swine Fever**

Asami Nago

**Resilience of Community in the Early Phase of the COVID-19 Pandemic in the Philippines**

Crystal Amiel M. Estrada, Ernesto R. Gregorio Jr., Jun Kobayashi

**Part IV: Military and Environment**

**Documenting the History of Sexual Violence by the US Military in Okinawa: Feminist Theorization of “the Island of Military Bases”**

Kozue Akibayashi

**Resilience of the Community against Environmental Pollution: The Knowledge Production Process of Local Activism on PFAS Contamination on US Military Bases in Okinawa**

Keisuke Mori

**Resilience in the Report Environmental Assessment, General Management Plan: War in the Pacific National Park, Guam**

Daisuke Ikegami

**Part V: Disaster Prevention**

**Perspectives on the Resilience of Okinawan Housing against Typhoons**

Juan Jose Castro

**DInSAR Technique and Laser Scanning Technology and Their Utilizations in Rock Engineering and Natural Disaster Management and Prevention**

Takashi Ito, Ömer Aydan, Naohiko Tokashiki

| 島嶼地域科学                                              |           |
|-----------------------------------------------------|-----------|
| 第2号                                                 |           |
| 研究論文                                                |           |
| 琉球王国におけるフュレ神父の足跡 ―その学術的資料と手紙から読み解く―                 | 宮里 厚子 1   |
| 近世琉球における人口推移の地域性について                                | 比嘉 吉志 12  |
| 明治後期の沖縄における感染症流行と衛生                                 | 前田 勇樹 20  |
| 長崎県の島嶼地域における航路網と観光需要との関係                            | 高橋 環太郎 33 |
| 琉球王国の言語レパートリーに基づいた言語シフトの考察 ―「移動」を経験した琉球諸語話者の内的体験から― | 安元 悠子 45  |
| 琉球北部・金武方言の名詞類とその周辺                                  | 玉元 孝治 57  |
| アタル語群における「家」と「屋内」の関連                                | 落合 いずみ 69 |
| 研究ノート                                               |           |
| 琉球の言語と文化の歴史と未来の展望について                               | 宮里 厚子 80  |
| 資料                                                  |           |
| 琉球王国の言語と文化の歴史と未来の展望について                             | 宮里 厚子 80  |
| 琉球王国の言語と文化の歴史と未来の展望について                             | 宮里 厚子 80  |

『島嶼地域科学』は島嶼地域科学研究所が発行する査読付きのオープンアクセスの学術雑誌である（J-stageにて公開）。本誌では島嶼に関する様々な研究についての論文や研究ノート、資料紹介といった原稿を幅広く募集し、1年に1回刊行している（掲載言語は日本語）。投稿募集の案内、および投稿規定などについては島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している（<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi>）。

2021年度は、2021年7月に第2号を発行した。目次は以下の通りである。本号についてはWeb上で閲覧が可能である（<https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi/jrsi02>）

## 『島嶼地域科学』第2号

### 研究論文

宮里 厚子

「琉球王国におけるフュレ神父の足跡 ―その学術的資料と手紙から読み解く―」

比嘉 吉志

「近世琉球における人口推移の地域性について」

前田 勇樹

「明治後期の沖縄における感染症流行と衛生」

高橋 環太郎

「長崎県の島嶼地域における航路網と観光需要との関係」

トッピング マシュウ・W

「石垣市におけるしまくとうばの言語イデオロギーと継承 ―参加型アクション・リサーチとしての事例研究―」

安元 悠子

「個人の言語レパートリーに基づいた言語シフトの考察 ―「移動」を経験した琉球諸語話者の内的体験から―」

玉元 孝治

「沖縄北部・金武方言の名詞類とその周辺」

落合 いずみ

「アタル語群における「家」と「屋内」の関連」

## 研究ノート

ズラズリ 美穂

「新しい話者の視座から見た琉球諸語の開花の取り組み」

## 資料

佐藤 崇範

「戦後に英訳された南洋群島に関する日本語科学文献について」

## 4. 研究成果の発信と普及

### (1) セミナー・シンポジウム等

#### **RIIS レジリエンス & バイタリティプロジェクト・レクチャーシリーズ 2021**

島嶼地域研究や関連する分野に携わる外部講師を招聘し、プロジェクトのテーマである「レジリエンス」と「バイタリティ」をテーマにしたレクチャーシリーズを開催した。2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web 会議システム Zoom にて行った。

#### **第 1 回**

日時：2021 年 6 月 28 日（月）14：30～16：00

講師：Marina Karides（Professor, University of Hawai’I, Manoa）

タイトル：“Preserving Islandness Through Gender and Food”

#### **第 2 回**

日時：2021 年 11 月 9 日（火）16：20～17：50

講師：高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター・教授）

タイトル：「奇跡の島々（？）：先史時代の奄美・沖縄諸島」

## 「島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2022」(TFIS2022)

本研究ウェビナーは、文部科学省概算要求プロジェクト『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』（レジリエンス&バイタリティ）の主催のもと、若手研究者を対象とした国際的な研究ウェビナーとして開催された。島嶼地域を対象に最新の研究を行っている若手研究者および様々な現場で活躍している若手のネットワーキングを目的として企画された国際大会である。

### 基調講演

#### 「沖縄のブルー・クラーク：農家経済調査簿の沈黙」

ウェンディ・マツムラ博士（カリフォルニア大学サンディエゴ校・准教授 歴史学）

### 個別報告

#### セッション A 島嶼研究のアクチュアリティ

司会：古波藏契（琉球大学島嶼地域科学研究所・ポスドク研究員）

#### 「沖縄における子どもの貧困対策 —行政による財政支援と市民活動の動員に関する連関について—」

糸数 温子（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

#### 「1950年代後半の沖縄島北部地域開発にみる軍用地接收、移住、環境破壊」

座間味 希呼（大阪大学大学院文学研究科博士前期課程）

#### 「アジア・太平洋島嶼国の新型コロナ感染症の学校の対応とその課題」

岡本 花恵（琉球大学大学院保健学研究科博士前期課程）

#### セッション B 島嶼性をめぐる学問融合型研究

司会：土井智義（琉球大学島嶼地域科学研究所・ポスドク研究員）

#### 「沖縄の「混血児」をめぐる教育と権利——霜多正次『明けもどろ』から読み解く「復帰」

藤本 秀平（琉球大学人文社会科学研究科博士後期課程）

#### 「山里禎子「ソウル・トリップ」論—新自由主義における自己決定の不可能性への問い—」

翁長 志保子（琉球大学人文社会科学研究科博士後期課程）

#### 「琉仏協定前文を比較する—琉仏間の認識相違に関する一考察—」

下岡 絵里奈（トゥールーズ大学）

## レジリエンス&バイタリティ 勉強会 2021

プロジェクトメンバーの個々の専門分野の知見を共有しながら「レジリエンス」と「バイタリティ」について学ぶことを目的とする。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web会議システム Zoom にて行った。

### 第1回

日時：2021年7月20日（火）16：20～17：50

発表者：淡野将太（教育学部／軍事と環境ユニット）

タイトル：「沖縄戦に関する平和教育について」

### 第2回

日時：2021年8月31日（火）16：20～17：50

発表者：斉藤美加（医学研究科／保健ユニット）

タイトル：「八重山のマラリア対策とレジリエンス—感染症時代を共に乗り越えるために—」

### 第3回

日時：2021年10月4日（月）10：20～11：50

発表者：古波蔵契（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

土井智義（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

タイトル：『『島ぐるみ』再考—「沖縄版高度成長」と村落的紐帯の再編」（古波蔵）

「誰が国籍を必要としたのか？—米国統治下・琉球列島の「転籍」「帰化」制度から—」（土井）

### 第4回

日時：2021年10月19日（火）16：20～17：50

発表者：呉世宗（人文社会学部／歴史清算ユニット）

タイトル：「沖縄戦時の朝鮮人という問題について」

### 第5回

日時：2021年11月29日（月）10：20～11：50 発表者：Castro Juan Jose（工学部／防災ユニット）

タイトル：「沖縄県における建築物の耐震化状況を考える」

### 第6回

日時：2022年1月24日（月）14：40～16：10

発表者：波多野想（島嶼地域科学研究所／コミュニティユニット）

タイトル：「過去の物質化／物質を通じた記憶化—遺産地域のオーセンティシティ とレジリエンス」



## (2) 研究資源データベース

島嶼地域科学研究所では、2018 年度より、島嶼地域科学を推進する過程で設定する重点課題を軸に、①学術情報・資料の収集・整理を行い研究資源化すること、②それらをデジタル化・データベース化し、ウェブ等で公開することで、多様な研究者からのアクセスを容易にすること、③「研究資源」及びそこから新たに得られた知見を地域社会に還元すること、を目的として、ウェブサイトで「研究資源データベース」の公開を始めた。2021 年度も引き続き公開を継続している。



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

島嶼地域科学研究所  
Research Institute for Islands and Sustainability

お問い合わせ

サイト

キーワード

研究所概要  
About RIIS

研究プロジェクト  
Research Projects

共同利用・共同研究  
Research Collaboration

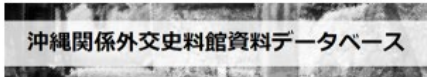
学術情報・資料 / Academic Resources

学術情報・資料 / Academic Resources

研究資源データベース / Research Resource Database

沖縄関係外交資料コレクション / Okinawa Diplomatic Resources Collection

↳ 沖縄関係外交史料館資料データベース / Okinawa Diplomatic Archival Document Database



沖縄関係外交史料館資料データベース

シマジマのしまくとうば



シマジマのしまくとうば  
危機的な状況にある言語・方言に関する研究

ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の南洋群島関係資料

“Tochi kankei shorui sonota” 収録タイトルリスト

### (3) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」(後学期・水曜日 1 限)

島嶼地域科学研究所では各年度の後学期に共通教育科目の授業を提供している。本授業は複数の学問分野の専門家によるオムニバス講義で実施している。2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえリモート配信による授業を提供した。授業内容は以下の通りである。

#### 授業概要

琉球列島などの小規模の島々からなる島嶼地域は、大陸部の地域や大国の視点からは周縁や辺境の存在として位置づけられる傾向にある。一方で、島嶼にフォーカスした様々な研究によって、島嶼地域ならではの環境や人間文化の多様性、あるいはそれに基づく独自の社会的課題や将来性も明らかになってきている。近年の多様な視点や価値観の共存を必要とする社会において、島の社会もまた島嶼固有の特性の理解に基づく自律的かつ持続的な社会の展開が求められている。本授業ではこうした島嶼地域での社会の成り立ちや現状・課題を理解するための基礎的な知識を様々な研究分野から習得し、「島嶼」の科学的な理解に基づいて島嶼社会の将来を考え・創造する力を獲得することを目的とする。

#### 授業内容 (各回の担当教員と授業テーマ)

##### 第 01 回：10 月 05 日 (Microsoft Teams 配信)

山極 海嗣 「登録および講義内容等のガイダンス」

##### 第 02 回：10 月 12 日 (Microsoft Teams 配信)

波多野 想・藤田 陽子 「イントロダクション：島嶼地域科学とは何か」

#### 「第 1 テーマ：歴史と記録からみた島嶼地域」

##### 第 03 回：10 月 19 日 (Microsoft Teams 配信)

山極 海嗣 「人類史からみた島嶼地域と島嶼性」

##### 第 04 回：10 月 26 日 (Microsoft Teams 配信)

鳥山 淳 「日本軍から見た島嶼 (奄美と沖縄)」

##### 第 05 回：11 月 02 日 (Microsoft Teams 配信)

池上 大祐 「太平洋島嶼現代史という視点」

##### 第 06 回：11 月 09 日 (Microsoft Teams 配信)

佐藤 崇範 「島嶼地域とアーカイブズ」

#### 「第 2 テーマ：人の移動と交流からみた島嶼地域」

##### 第 07 回：11 月 16 日 (Microsoft Teams 配信)

波多野 想 「島嶼における交流人口と関係人口の創出と拡大」

(11 月 23 日は休日のため 11 月 25 日に振り替え?)

##### 第 08 回：11 月 30 日 (Zoom 配信)

山里 絹子 「砂糖プランテーションをめぐる人の移動と島嶼性」

##### 第 09 回：12 月 07 日 (Zoom 配信)

酒井 アルベルト 清 「ウチナーンチュの越境的ネットワークからみた沖縄の島嶼性」

「第3テーマ：様々なリスクからみた島嶼地域」

第10回：12月14日（Microsoft Teams 配信）

藤田 陽子 「島嶼における環境リスクと経済」

第11回：12月21日（Microsoft Teams 配信・録画提供）

伊東 孝 「島嶼地域における地盤防災の将来」（＊録画提供）

第12回：01月04日（Microsoft Teams 配信）

小林 潤 「アジア・太平洋島嶼の健康とその課題」

「第4テーマ：ジェンダーからみた島嶼地域」

第13回：01月11日（Zoom 配信）

本村 真「戦後沖縄の混乱期における子どもの福祉に関連したジェンダー問題とその解決実践」

第14回：01月18日（Microsoft Teams 配信）

宜野座 綾乃「島嶼地域における軍事主義の文化とジェンダー」

第15回：01月25日 受講者参加型ディスカッション（Microsoft Teams 配信）

## Ⅲ. 教員の研究・教育活動と成果

---

1. 研究業績
2. 教育活動
3. 社会連携

## 1. 研究業績（専任・併任教員：2021 年 4 月～2022 年 3 月）

＊日英併記、50 音順、専任・併任教員名に下線を付す

### 【原著論文】

1. **Ikegami, D.** 2022. Resilience in the Report Environmental Assessment, General Management Plan: War in the Pacific National Park, Guam. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 3, number 1: 177-190. (査読あり)
2. **石原昌英** (2022)「琉球芸能（舞踊・唄三線）としまくとぅば継承」『シマジマのしまくとぅば 3 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究 令和 3 年度』pp.337-342. (査読なし)
3. **大湾知子**, 渡真利絹江, 宮里実, 當山悦子, 新崎真由美, 高良奈津子, 長嶺覚子, 南部路治, 泉恵一朗, 芦刈明日香, 斎藤誠一 (2021)「多職種で取り組む排尿ケアー 看護師の立場から ―」『日排尿会誌』31 巻, 2 号, pp.1～7. (査読あり)
4. Kurnianda, V., Fujimura, H., **Kanna, Y.**, Tanaka, J., 2021. Photooxidation Products from a Marine Cadinane Sesquiterpenoid. *Chemistry Letters*, volume 50, number 2: 220-222. (査読あり)
5. **Kina, I.** (2022) “Indigenous Women’s Storytelling in Resistance and Resilience: the Stories of Liglav A-Wu and Tami Sakiyama.” *Okinawan Journal of Island Studies*, Vol.3, no.2, pp.47-54. (査読なし)
6. **Ginoza, A.** 2022. Cultures of Resilience and Vitality in the Okinawa Islands and Beyond. *Okinawan Journal of Island Studies* 3.2: i-xiii.
7. **Ginoza, A.** 2022. Okinawa Islands Epistemologies in the Women’s Unai Festival of 1985. *Okinawan Journal of Island Studies* 3.2: 35-45. (査読あり)
8. 秋林こずえ, **宜野座綾乃**. (2021)「コロナ禍から軍事主義を問う：軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」『女性・戦争・人権学会誌』第 19 号, pp. 42-53. (査読なし)
9. Henzan H, Takeuchi R, Njenga SM, Gregorio ERG, Ichinose Y, Nonaka D, **Kobayashi J.** 2021. Factors influencing school re-entry among adolescents in Kenya.0, 1-11, 2021 *Pediatr Int*. doi: 10.1111/ped.14866(査読あり)
10. Toyama N, Vongphoumy I, Uehara M, Sato C, Nishimoto F, Moji K, Pongvongsa T, Shirai K, Takayama T, Takahara M, Tamashiro Y, Endo Y, Kounnavong S, **Kobayashi J.** 2021. Impact of village health volunteer support on postnatal depressive symptoms in the remote rural areas of Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study. 49 (1) 28, 2021 *Trop Med Health*.doi: 10.1186/s41182-021-00316-0 (査読あり)
11. Noda S, Hernandez PMR, Sudo K, Takahashi K, Woo EN, Chen H, Inaoka K, Tateishi E, Affarah WS, Kadriyan H, **Kobayashi J.** 2021. Service Delivery Reforms for Asian Ageing Societies: A Cross-Country Study Between Japan, South Korea, China, Thailand, Indonesia, and the Philippines21(2):1 2021.*Int J Integr Care*.doi: 10.5334/ijic.4739 (査読あり)
12. Takeuchi R, Njomo DW, Njenga SM, Tomokawa S, Mutua A, Kazama H, Barnette W, Akiyama T, Asakura T, Kamiya Y, **Kobayashi J.** 2021. Has the double burden of malnutrition reached pupils in rural Western Kenya? 0:1-7, 2021 *Pediatr Int* doi: 10.1111/ped.14729 (査読あり)
13. Noguchi Y, Nonaka D, Kounnavong S, **Kobayashi J.** 2021. Effects of Hand-Washing Facilities with Water and Soap on Diarrhea Incidence among Children under Five Years in Lao People's Democratic Republic: A Cross-Sectional Study.18(2):687. 2021 *Int J Environ Res Public Health* doi: 10.3390/ijerph18020687. (査読あり)
14. Mochida K, Nonaka D, Wamulume J, **Kobayashi J.** 2021. Supply-Side Barriers to the Use of Public Healthcare

Facilities for Childhood Illness Care in Rural Zambia: A Cross-Sectional Study Linking Data from a Healthcare Facility Census to a Household Survey 18(10):5409. 2021 Int J Environ Res Public Health doi: 10.3390/ijerph18105409. (査読あり)

15. Takahashi E, Vilay P, Chanthakoummane K, Pongvongsa T, Kounnavong S, Kano S, **Kobayashi J**, Nonaka D. 2021. Adherence to antihypertensive medications in rural Lao PDR: a prospective observational study 49:88. 2021 Trop Med Health doi: 10.1186/s41182-021-00374-4 (査読あり)
16. 辻和歌子, 野中大輔, **小林潤** (2021)「沖縄県の分娩施設で早期母子接触は実施されているのか？」『母性衛生』62(1): 188-196。(査読あり)
17. 具志堅美智子, 小宮一郎, **小林潤** (2021)「isCGM が糖尿病負担感情に及ぼす効果」『糖尿病』64(5) 333-335。(査読あり)
18. 新崎泰史・**杉村泰彦**・内藤重之「離島におけるエダマメの産地形成—沖縄県伊良部島を事例として—」『農業市場研究』第30巻、第4号、pp.8-14。(査読あり)
19. **鈴木規之** (2021)「東北タイの開発と市民社会形成のダイナミズム—2つの農村の比較から—(1)」『人間科学』第42号、pp.1-38
20. Phonemany Vongxay and **Noriyuki Suzuki**. 2021. Endogenous Development in Lao PDR in the Era of Globalization: Contrastive Case Studies of External Assistance for a Sustainable Rural Development Path. *Journal of Mekong Societies*, volume 17, number 1: 23-54. (査読あり)
21. 浦内桜・**淡野将太**・越中康治 (2022)「小学校における宿題の内容に関する研究」『琉球大学教育学部紀要』第100号、pp.1-6。(査読なし)
22. **Tanno, S.** 2022 A descriptive review of research on peace education concerning Okinawa. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 3, 103-114. (査読あり)
23. **Toriyama, A.** 2021. "Overcoming the Past" concerning the War Experiences on Kumejima. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 3, number 2: 77-87. (査読あり)
24. **内藤重之** (2021)「新型コロナ禍による観光・交流機会の減少が食料・農業・農村に及ぼす影響」『農業市場研究』第30巻第3号、pp.47-61。(査読あり)
25. 小林大祐・**内藤重之**・杉村泰彦 (2021)「北海道十勝・オホーツク地方におけるてん菜の作付減少要因と生産維持の取組」『琉球大学農学部学術報告』第68号、pp.28-35。(査読なし)
26. 新崎泰史・**杉村泰彦**・内藤重之 (2022)「離島におけるエダマメの産地形成—沖縄県永良部島を事例として—」『農業市場研究』第30巻第4号、pp.8-14。(査読あり)
27. **名護麻美**, タン・セリーナ、當間千夏、東矢光代 (2021)「オンライン型短期研修プログラムの取り組みから得られた学修成果と分析による質保証」『琉球大学大学教育センター報』第24号、pp.50-55。(査読なし)
28. **Nago, A.** 2022. Dealing with Precarity in the Hog Industry and Resilience on Okinawa Island: A Case Study of the 2020 Classical Swine Fever. *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)*, volume 3, number 2:117-131. (査読あり)
29. MacLean George, Toya Mitsuyo, **Nago Asami** and Serinah Tan. 2022. Insights Derived from Two Multinational COIL Exchange Contents. *International Virtual Exchange Conference*, Conference Proceedings Papers, 58-64. (査読なし)
30. **Hatano S.** and Hui-ju Lin. 2022. Cultural Heritage and Its Authenticity: Spatialization of Local Pasts through Making Models in Jinguashi Mine, Taiwan. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 3, Issue 2, Special

Issue on Interisland Resilience & Vitality: 55-73. (査読あり)

31. 廣瀬 孝・大河内 萌 (2021)「沖縄島本部山里の円錐カルスト地形に関する研究—コックピットカルストの土層厚と土層構造—」『沖縄地理』第 21 号、pp.45-54。(査読あり)
32. 宮里厚子 (2021)「琉球王国におけるフュレ神父の足跡—その学術的資料と手紙から読み解く—」『島嶼地域科学』第 2 号、pp.1-17。(査読あり)
33. Motomura, M. 2021. Urgent need to strengthen school health in Asia and the Pacific Islands. Kobayashi, J. Takeuchi, R. Toyama, Y. Gregorio, ER Jr. Kadriyan, H. Estrada, CAM. Wake, N. Yamada, K. Ishikawa, R. Takakura, M. ed. *Pediatrics international* . (査読あり)
34. 矢野恵美 (2021)「スウェーデンにおける 2018 年性犯罪規定改正の背景」『ジェンダーと法』第 18 号、pp.121-137。
35. 矢野恵美 (2021)「親密圏における暴力の犯罪化の意義と困難さの克服方法に関する一考察 (1)」『琉大法学』第 104 号、pp.39-56。
36. 矢野恵美 (2021)「第 4 次犯罪被害者等基本計画 — SDGs、ジェンダー主流化と被害者政策—」『被害者学研究』第 31 号、pp.61-73。
37. Yamagiwa, K. 2022. Early Human Cultural and Communal Diversity in the Ryukyu Islands. *Okinawan Journal of Island Studies* 3(2) , pp.3-15. (査読あり)
38. 小野林太郎, 山野ケン陽次郎, 片岡修, Jason Barnabas, 長岡 拓也, 片桐 千亜紀, 山極海嗣 (2022)「東ミクロネシアにおける人類の移住年代と貝利用—ポーンペイ島での最近の発掘成果より」『東南アジア考古学』(41)、pp.57-72。(査読あり)
39. 山極海嗣 (2021)「宮古島産土器の焼成実験における分析」『宮古研究』(14)、pp.79-85 (査読なし)
40. Yamazato, K. 2022. Remembering the Battle of Okinawa and Reshaping Community War Narratives: The Commemoration of Irei no Hi in the Okinawan Diaspora in Hawai'i. *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)*, volume 3, number 2. (査読あり)

#### 【書籍】(単著・分担執筆含む)

1. 池上大祐 (2021)「第 10 章 アメリカ膨張史のなかの沖縄」前田勇樹・古波藏契・秋山道宏 (編)『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』、ボーダーインク、pp. 134~149。
2. 池上大祐、波多野想 (編) (2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践—』ミネルヴァ書房。
3. 源河朝徳, 儀間朝昭, 仲里朝豪, 宜野座朝美, 邊土名朝功, 浦添健, 源河朝福, 仲里朝勝, 仲里哲雄, 大湾朝史, 大湾知子, 豊平朝安, 辺土名朝二郎, 識名朝徳, 板良敷朝計, 木村信教, 識名朝友, 仲里豪 (2021)「元祖第二尚氏尚清王之第八男読谷山王子朝苗改訂玉川門中系図」『(有) ヤマダスピード製版』1-425。(査読なし)
4. 大湾知子, 砂川 恵伸, 津波 高志, 牛窪 潔, 木暮 一啓, 東恩納 盛男, 仲程 力, 島袋 善保, 比嘉 稔, 蔵元 雅一, 比嘉 康雄, 上原 米和, 米里 吉則, 島袋 善俊, 與儀 清斗, 安和 花音, 池田 和夏, 大木 有馬, 大城 凜, 岡島 皓生, 尾立 真悟, 金城 光平, 呉屋 絢音, 城間 若那, 高津 祐一, 比嘉 逸翔, 比嘉 小夏, 藤原 あかり, 有銘 真之助, 佐久川 陽菜, ZHAO QIUSHI, 渡真利 絹江 (2022)「琉球大学 令和 3 年度地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組

報告書 沖縄の生活文化における伝統空手の国指定無形文化財への取り組みと健康教育への普及  
『コザ印刷所』1-91。(査読なし)

5. 喜納育江 (2021)「文学とコミュニティ」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く～問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.66-70。(査読なし)
6. Kina, I. 2022. Encountering Others within Ourselves: Circle K Cycles and Ethnic Identity in Okinawa. Ruth, Y. Hsu. Pamela, Thoma. ed. *Approaches to Teaching the Works of Karen Tei Yamashita*. MLA: 82-86.
7. Kina, I. 2021. On Becoming an Okinawan and a Feminist: My Path to an Americanist Career. Yoshihara, M. ed. *Unpredictable Agents: The Making of Japan's Americanists during the Cold War and Beyond*: 56-71. (査読なし)
8. 宜野座綾乃 (2022)「アイランド・ネットワーク」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.17-24. (査読なし)
9. 宜野座綾乃 (2022) 「レジリエンス」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.25-28. (査読なし)
10. 宜野座綾乃 (2022)「つながる人々」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.46-50. (査読なし)
11. 宜野座綾乃 (2022)「アイランド・フェミニズム」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp. 61-65. (査読なし)
12. Gregorio ERJ, Kobayashi J. 2021. Chapter 7. Health promotion, health education and risk communication for Zika virus disease. Martin CR et al ed. *Zika Virus Biology, Transmission and Pathways: The Neuroscience of Zika Virus*. London UK, ELSEVIER, 31-39.
13. 淡野 将太 (2022)「PTSD と戦争」『池上 大祐・波多野 想 (編著). 島嶼地域科学を拓く——問い直す環境・社会・歴史の実践—— (pp.156-159)』ミネルヴァ書房
14. 淡野 将太 (2022)「トラウマと PTSD」『池上 大祐・波多野 想 (編著). 島嶼地域科学を拓く——問い直す環境・社会・歴史の実践—— (pp.151-155)』ミネルヴァ書房
15. 佐藤崇範 (2022)「アーカイブズ」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く——問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.34-38.
16. 豊見山和行 (2021)「琉球国要書抜粋」について—史料翻刻と紹介—(下)『琉球アジア文化論集』第8号、pp.15-191.
17. 豊見山和行 (2022)「百浦添御普請日記」に見る修築工事の概要」那覇市歴史博物館 (編)『首里城御普請物語 国宝「琉球王国尚家関係資料」資料集』、pp.7-9.
18. 鳥山淳 (2021)「軍隊と島嶼住民」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学を拓く』、ミネルヴァ書房、pp.170-174.
19. 内藤重之 (2021)「流通構造の変化」大浦裕二・佐藤和憲 (編)『フードビジネス論』、ミネルヴァ書房、pp.83-97.
20. 名護麻美 (2022)「琉球在来豚アゲの復活と島嶼ブランド化」池上大祐・波多野想 (編)『島嶼地域科学という視点』、ミネルヴァ書房。
21. 野入直美 (2022)『沖縄のアメラジアン—移動とダブルの社会学的研究』、ミネルヴァ書房。
22. 野入直美 (2022)「湾生映画にみる植民地二世の記憶と表象」蘭信三編著『帝国のはざまを生きる 交錯する国境、人の移動、アイデンティティ』、みずき書林、pp.355-376. (査読あり)



23. 波多野想 (2022)「1 島嶼を探究する」池上大祐・波多野想(編)(2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.3-6。
24. 波多野想 (2022)「7 島嶼空間と日常実践」池上大祐・波多野想(編)(2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.29-33。
25. 波多野想 (2022)「9 コミュニティ創造の基盤としての記憶」池上大祐・波多野想(編)(2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.41-45。
26. 波多野想 (2022)「15 資源としてのランドスケープ」池上大祐・波多野想(編)(2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.71-75。
27. 波多野想 (2022)「16 島の文化遺産」池上大祐・波多野想(編)(2022)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.76-80。
28. 藤田陽子 (2022)「キャリング・キャパシティ(環境容量)」池上大祐・波多野想編著『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.113-117。
29. 藤田陽子 (2022)「生態系サービス」池上大祐・波多野想編著『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.118-122。
30. 矢野恵美 (2021)「暴力とジェンダー—性犯罪、DV、セクハラを中心に」二宮周平・風間孝(編)『家族の変容と法制度の再構築』、法律文化社。(査読なし)
31. 山極海嗣 (2022)「海域ネットワーク」池上大祐・波多野想(編)『島嶼地域科学を拓く—問い直す環境・社会・歴史の実践』、ミネルヴァ書房、pp.21-24。
32. 山里絹子 (2022)「『コンタクト・ゾーン』としてのハワイ—沖縄系移民の視点から」、「オキナワ・ディアスポラにおける Irei no Hi の実践」池上大祐・波多野想(編)『島嶼地域科学を拓く』、ミネルヴァ書房、pp.51-60。

【その他(資料、解説、雑文、翻訳、新聞・雑誌への投稿等)】

1. 池上大祐 (2021)「『グローバルヒストリー』の萌芽を読み取る—熊野直樹著『麻薬の世紀』へのコメント—」『九州歴史科学』第49号、pp.72-76。
2. 池上大祐 (2022)(新刊紹介)「秋田茂／細川道久著『駒形丸事件—インド太平洋世界とイギリス帝国—』」『西洋史学論集』第59号、pp.66-69。
3. 大湾知子 (2021)「新型コロナウイルス感染症対策としての个人防护具提供と感染性廃棄物処理」『琉球大学環境報告書 Environmental Report 2021』,琉球大学,25。(査読なし)
4. 大湾知子, 知花史明, 當山悦子, 新垣薫, 山下明美, 仲西めぐみ, 大湾朝成 (2021)「沖縄県支部活動ing コンチネンスリーダーとしての私」『コンチネンス Now 日本コンチネンス協会』2。(査読なし)
5. 東恩納盛男, 島袋善保, 比嘉稔, 仲程力, 蔵元雅一, 砂川正木, 比嘉康雄, 大湾知子 (2021)「DVD VIDEO UNESCO 2017 年沖縄伝統空手のユネスコ無形文化遺産登録に向けて講演会報告書」『沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ世界遺産登録推進協会』1-11。(査読なし)
6. 大湾知子 (2021) 文芸投稿コーナー：琉歌の部。琉球大学同窓会会報第43号。30。2021。
7. 大湾知子 (2021) 臨床検査技師講師の先生方の御尽力に感謝！～沖縄県看護協会 感染管理認定看護師教育課程微生物検査演習～。琉球大学医学部保健学科 ホームページ：1-9, 2021年11月4日。
8. 大湾知子 (2021)「空手普及へ琉球大学が講義 医学部の大湾准教授ら尽力 歴史や理論学ぶ独自

教材」『沖縄タイムス記事』2021年6月13日。

9. 大湾知子 (2021)「琉大で空手の講義開講 国公立で初 継承へ教材作成も」『琉球新報記事』2021年6月25日。
10. 大湾知子 (2021)「初の空手講義 16人修了 琉球大 各流派の歴史学ぶ」『琉球新報記事』2021年8月20日。
11. 大湾知子, 大湾朝成, 富山悦子, 仲西めぐみ, 久場川潤, 伊波義一 (2021)「2021年度オーガナイザー養成支援公開講座 排尿・排便の管理～排泄の悩みを解決しよう!～」『琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学』1-26。(査読なし)
12. 瀬口浩一 (2021)「ポストコロナ時代に向けた自治体経営の状況と今後の展望」調査報告書 沖縄振興開発金融公庫調査部地域連携情報室・上間美優 他 沖縄振興開発金融公庫。
13. 瀬口浩一 (2021)「沖縄県工業製品の県内自給率調査—沖縄県工業の産業連関分析—」(令和4年2月) 報告書。
14. 喜納育江 「波照間永吉、小嶋洋輔、照屋理編著『琉球諸語と文化の未来』」『沖縄タイムス』2021年7月29日(新刊紹介)
15. Ginoza, A., Evangelia Papoutsaki, Meng Qu. 2022. Cultural Heritage of Islands. Okinawan Journal of Island Studies 3.1: i-v. (査読なし)
16. Ginoza, A. 2021. Book Review: James Randall. *An Introduction to Island Studies*. Rowman & Little Field. 2021. *Island Studies Journal* 16.2: 383-384.
17. Ginoza, A. 2021. “Listening to the Multinational War Dead in Okinawa.” *The Funambulist*. July 30, 2021. <https://thefunambulist.net/editorials/the-funambulist-correspondents-17-listening-to-the-multi-national-war-dead>.
18. 宜野座綾乃 (2021) 「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して：ジェンダーへの主体的アプローチ」『琉球大学大学教育センター報』第24号, pp.25-29.
19. Kobayashi J., Aritaka N, Nozaki I, Tabata A, Noda S. 2021. COVID-19 control during a humanitarian crisis; the need for emergency response at the Thai-Myanmar border as an alternative channel.49(1):33 2021 Trop Med Health doi:10.1186/s41182-021-00323-1 (査読あり)
20. Kobayashi J., Takeuchi R, Shibuya F, Murata Y, Takahashi K. 2021. Recommendations for the urgent need to vaccinate school-aged and adolescent children against COVID-19 in the Asia-Pacific region 49:74 2021 Trop Med Health doi:10.1186/s41182-021-00365-5 (査読あり)
21. Kobayashi J., Takahashi K. 2021. Perspectives of sustainable global school health promotion in Asia and Africa 0:1-3 2021 Pediatr Int doi: 10.1111/ped.14867 (査読あり)
22. Takahashi K, Kobayashi J. 2021. Quantitative or qualitative? Both types of research matter for establishing a voice from field evidence 0:1-3 2021 Pediatr Int doi: 10.1111/ped.14988 (査読あり)
23. Kobayashi J., Takahashi K. 2021. “Reverse innovation” and “child rights” in further school health promotion 0:1-3 2021 Pediatr Int doi:10.1111/ped.15002 (査読あり)
24. 佐藤崇範 (2021)「戦後に英訳された南洋群島に関する日本語科学文献について—L. G. Eldredge“Japanese translations available at the Micronesian Area Research Center”(1977)をもとに」『島嶼地域科学』第2号、pp.183-197。
25. 杉村泰彦 (2021)「新型コロナ禍の切花産地：向き合う困難と新しい展望」『月刊J A』第67巻、第6号、pp.28-29。

26. 當山奈那 (2022)「伊是名村仲田方言の形容詞・名詞活用の資料」『シマジマのしまくとうば』3号、pp.95-115。
27. 波多野想 (2021)「沖縄県南城市における地域資源の活用とランドスケープ-自律分散型システムとしてのエコミュージアムの編成」『ランドスケープ研究』、85巻2号、pp.138-141 (査読なし)。
28. 廣瀬 孝 (2021)「流域からの水と土砂の流出量から地形変化速度(削剥速度)を推定する」リレーエッセイ地球を俯瞰する自然地理学 No.100『科学』第91巻10号、pp.985-986。(査読なし)
29. 宮里厚子 (2021)「フランス人宣教師の琉球滞在と洋学」洋学史学会監修『洋学史研究事典』、p.461。(査読あり)
30. 矢野恵美 (2021)「かつては自分も...玉城知事に聞く「ジェンダー」 選択的別姓どう思う？管理職登用は？<女性力の現実>」、琉球新報、2021年4月30日
31. 矢野恵美 (2021)「玉城知事「性への偏見、自分にも残っているんだろうな」 政策への本気度を直撃」、琉球新報、2021年4月30日
32. 矢野恵美 (2021)「【識者談話】玉城知事、ジェンダー平等への理解追いつかぬ部分も 矢野恵美・琉球大院教授」、琉球新報、2021年4月30日
33. 矢野恵美 (2021)「玉城知事 BBQ 投稿「山の神」の真意とは？ 識者に聞いた」、琉球新報、2021年5月8日
34. 矢野恵美 (2021)「<金口木舌>配偶者の呼び方あれこれ」、琉球新報、2021年5月20日
35. 矢野恵美 (2021)「履歴書などの性別欄、差別助長の恐れも 女性や性的少数者...構造同じ <「女性力」の現実 政治と行政の今>23」、琉球新報、2021年6月20日
36. 矢野恵美 (2021)「【識者談話】教師わいせつ、法整備が必要 性交同意年齢13歳は低すぎる(矢野恵美・琉大法科大学院教授)」、琉球新報、2021年8月30日
37. 矢野恵美 (2021)「【識者談話】生理への理解と公助を(矢野恵美・琉球大法科大学院教授)」、琉球新報、2021年9月14日
38. 矢野恵美 (2021)「「うちあたい」しながら考え、気づいた...「女性力」報道<取材ノート・新聞週間2021>」、琉球新報、2021年10月17日
39. 矢野恵美 (2021)「ジェンダー平等 差別是正に積極的措置必要 矢野恵美・琉大法科大学院教授<識者の見方・衆院選2021>4」、琉球新報、2021年10月17日
40. 矢野恵美 (2021)「ピンクドット沖縄2021 来月11日開催 那覇・琉球新報ホール」、琉球新報、2021年11月26日
41. 矢野恵美 (2021)「性の多様性に理解深めよう ピンクドット沖縄開催 教員側の認識課題を指摘」、琉球新報、2021年12月12日
42. 矢野恵美 (2022)「【識者談話】まずは学校個室トイレに生理用品を(矢野恵美・琉大法科大学院教授)」、琉球新報、2022年1月15日
43. 矢野恵美 (2022)「夫婦別姓や人権、理解深める 女性の翼、パリテカフェとコラボ講座」、琉球新報、2022年2月20日
44. 矢野恵美 (2021)「[#ジェンダー とともに] 同意なき性交処罰 結論出ず 法務省検討会 慎重意見と両論併記 矢野琉大教授「守るべきは誰か」」、沖縄タイムス、2021年5月26日
45. 矢野恵美 (2021)「多様性を尊重、姿勢を示す 身近に当事者の認識を 企業の取り組み」、沖縄タイムス、2021年6月30日
46. 矢野恵美 (2021)「性犯罪の処罰拡大 法制審で議論 被害者の意見反映は見通せず」、沖縄タイムス、

2021 年 9 月 17 日

47. 矢野恵美 (2021) 「「表層深層」性犯罪規定見直し検討 被害者の声、どこまで反映 「遅れた性教育」 障壁に」、沖縄タイムス、2021 年 9 月 17 日
48. 矢野恵美 (2022) 「性同一性障害・同性婚・夫婦別姓...セクシュアリティと女性差別の構造に迫る女性リーダー勉強会」、沖縄タイムス、2022 年 2 月 24 日
49. 矢野恵美 (2022) 「性犯罪 関係性問わず 専門家 「警察は基礎知識学んで」、沖縄タイムス、2022 年 3 月 29 日

#### 【招待講演】

1. 大島順子 「基調講演：世界自然遺産登録地域やんばると SDGs」 シティグループ証券株式会社 & 琉球大学 SDGs 推進室主催やんばる世界自然遺産登録記念オンラインイベント Part1: 持続可能な沖縄の未来へ～大学と金融機関が考える課題と展望～、オンライン、2021 年 10 月 20 日
2. 喜納育江 「Gayl Jones の *Mosquito* に見る「境域」としての Latinx South の形成」 第 60 回 日本アメリカ文学会年次大会 シンポジウム III (九州支部発題) アメリカ南部文学の現状と展望 — Faulkner から New Southern Studies へ—、2021 年 10 月 2 日～3 日
3. 宜野座綾乃 「沖縄戦の記憶と暴力：一つの沖縄フェミニズムの可能性について」「女性・戦争・人権」学会、10 月 24 日、オンライン。
4. 宜野座綾乃 「認識論と社会構築論を中心に：リサーチクエスションと理論について」 サンフランシスコ州立大学ウェスリー・ウェウンテン教授『沖縄ディアスポラ』セミナー、名桜大学、2021 年 7 月 28 日。
5. Ginoza, A. 2022. “Island Caring.” 琉球大学開学 70 周年記念シンポジウム講演、琉球大学。
6. Ginoza, A. 2022. “母子保健におけるジェンダー視点.” JICA 母子保健研修。
7. 金城ひろみ 「琉球人と中国語」 首里城友の会コンパクト講座、沖縄・那覇、2022 年 1 月 16 日
8. Kobayashi J. Asian response to COVID-19 pandemic: Perspective of public health system response, health behavior, and welfare policy. 2nd Global Health and Innovation Conference. July 30, 2021 Online.
9. 豊見山和行 「疫病をめぐる琉球の社会と国家—研究の現状と展望—」 琉球沖縄歴史学会シンポジウム「健康と疫病」、オンライン開催、2021 年 9 月 18 日
10. 内藤重之 「新型コロナ禍による観光・交流機会の減少が食料・農業・農村に及ぼす影響」 日本農業市場学会 2021 年度大会、オンライン、2021 年 7 月 3 日
11. 野入直美 「沖縄の米軍統治とアメリカン—「混血児」調査を中心に—」 西日本社会学会、オンライン、2021 年 5 月 23 日
12. 藤田陽子 「生態系サービスと経済」環境省気候変動適応における広域アクションプラン策定事業(生態系分科会) 委員会、2021 年 11 月 30 日 (Web 会議)
13. 矢野恵美 「大学におけるハラスメント」岡山大学ハラスメントの防止等に関する講演会、岡山、2021 年 11 月 4 日
14. 矢野恵美 「少年院にはどのような子どもがいるのか」社会的養護・里親家庭アフターケア相談室「にじのしずく」、沖縄・那覇、2021 年 6 月 28 日
15. 矢野恵美 「ジェンダーの視点から見た性の多様性の尊重」、令和 3 年度人権教育指導者研修会、沖縄・浦添、2021 年 7 月 27 日

16. 矢野恵美「性交同意年齢について」、日本学術会議、オンライン、2021年7月30日
17. 矢野恵美「大学におけるハラスメントを考える」、沖縄県立芸術大学、オンライン、2021年10月26日
18. 矢野恵美「スウェーデンにおけるDV対策について」、内閣府 第6回配偶者暴力防止法見直し検討ワーキング・グループ、オンライン、2021年11月5日
19. 矢野恵美「刑事司法・刑務所・受刑者の基礎知識」、沖縄県社会福祉士会、オンライン、2021年11月13日
20. 矢野恵美「スウェーデンにおける性犯罪規定」、法務省 法制審議会刑事法（性犯罪関係）部会 第2回会議、オンライン、2021年11月29日、
21. 矢野恵美「被拘禁者を親にもつ子どもたち」、CrimeInfo 世界人権デー企画、オンライン、2021年12月10日
22. 矢野恵美「大学のハラスメント相談における公認心理師の活躍ー法と心理の協働：「琉大モデル」ー」、第1回日本公認心理師学会学術集会、オンライン、2021年12月12日
23. 矢野恵美「性の多様性の尊重はなぜ子ども達の人権とかかわるのか」、沖縄県教育庁、オンライン、2022年1月28日
24. 矢野恵美「世界のジェンダーの視点」、沖縄県女性の翼、沖縄・那覇、2021年2月19日
25. 山極海嗣「くにうみやわらか講座（考古学）」第3回ヤポネシアゲノム くにうみミーティング、オンライン、2022年3月16日。（招待有り）
26. 山極海嗣「宮古島からー宮古島の人類史からみる島嶼地域における文化的多様性とその背景ー」2020年沖縄シンポジウム「琉球の島々から 日本の行く末を見据える」、沖縄・那覇、2022年3月13日。
27. 山極海嗣「日本列島南西縁地域の人類史研究ーヒトの移動誌と文化多様性への考古学的アプローチー」国際島嶼教育研究センター第217回研究会、オンライン、2022年3月7日。
28. 山極海嗣「旧石器時代以降の宮古島の人類史における研究展望」宮古島市教育委員会文化講座：発掘調査から宮古人のルーツを探る、宮古島歴史資料館、2021年12月5日

#### 【学会発表】

1. 池上大祐「オンデマンド型講義による歴史教育実践ー能動的な学びをどう確保するかー」九州西洋史学会春季大会シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」、オンライン、2021年4月17日
2. 池上大祐「グアム現代史研究の現状と課題ーアメリカ史研究と世界史教育の観点からー」九州スペイン研究会夏季研究大会、オンライン、2021年8月20日
3. 池上大祐「コメント（合評会 熊野直樹『麻薬の世紀：ドイツと東アジア 一八九八-一九五〇』東京大学出版会、2020年）」九州歴史科学研究会10月例会、オンライン、2021年10月23日
4. 大島順子「地域における世界自然遺産教育ー人類の財産として次世代に守り伝えていく責任の学び化」日本環境教育学会第32回年次大会（北九州）、オンライン、2021年8月21日
5. 大島順子「やんばるの地域課題と向き合う大人の学びー学び続ける組織体と学習のあり方の追究」日本社会教育学会第68回研究大会（明治大学）プロジェクト研究「SDGsと社会教育・生涯学習」報告、オンライン、2021年9月12日
6. Kina, I. The Environmental Consequences of Declining Carnal Memories under COVID-19 *The 7<sup>th</sup>*

*International Symposium for Literature and Environment in East Asia*. Oct 23-24, 2021.

7. **Ginoza, Avano**, Megumi Chibana. “Detours Okinawa.” Roundtable: *The Detours Guide Series: Decolonization in Asia and Beyond*. Organized by Vernadette Gonzalez, Hokulani K Aikau. Association for Asian Studies, Webinar. March 25, 2022. Webinar.
8. **Ginoza, Avano**. Roundtable: “Program Committee Sponsored Session: Interdisciplines and Methodological Openings: Life-Making in a Neoliberal Time of Militarized Dispossession.” American Studies Association, Webinar. October 12, 2021.
9. **Ginoza, Avano**. “Performing Ryukyuan Dance in the Okinawan Diaspora in LA.” Association for Asian American Studies Conference. Webinar. April 9, 2021.
10. Fumiko Shibuya, Dian Puspita Sari, Cut Warnaini, Arina Windri Rivarti, Rie Takeuchi, Daisuke Nonaka, Hamsu Kadriyan, **Jun Kobayashi**. Teachers’ Effort to Cope with Conflict in Implementing Comprehensive Sexuality Education at Secondary Schools in Mataram City, Indonesia: A Qualitative Study. 2nd Global Health and Innovation Conference. July 30, 2021 Online.
11. Fumiko Shibuya, Hirono Sasaki, Rie Takeuchi, John Thumbiko Kaunda, **Jun Kobayashi**. Systematic Review of Comprehensive Sexuality Education Focusing on Teacher’s Conflict: A Qualitative Study. 52nd AsiaPacific Academic Consortium for Public Health Conference. October 26- 28, 2021 Online.
12. Yuko Muramatsu Noguchi, Daisuke Nonaka, Sengchanh Kounnavong, **Jun Kobayashi**. Association between Socio-Economic Status and the Presence of Soap at Handwashing Place in Lao People’s Democratic Republic: A 276 Cross-Sectional Study. 52nd Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference. October 27-28, 2021 Online.
13. **小林潤**. シンポジウム「ウイズ・ポストコロナ時代における学校保健の国際的普及強化の必要性」日本国際保健医療学会 2021年11月28日
14. **Jun Kobayashi**. The urgent need to strengthen school health and vaccinate school-aged and adolescent children against COVID-19 in the Asia-Pacific region. 日本熱帯医学会 2021年11月3－4日
15. **小林潤**. 沖縄のマラリアの歴史を読み解く シンポジウム「沖縄に学ぶ感染症対策～公助・互助・自助の果たす役割 日本熱帯医学会 2021年11月3－4日
16. 渋谷文子, OUEDRAOGO Berthe, 野中大輔, 竹内理恵, **小林潤**. ブルキナ ファソ・クドゥグ市の家政職業訓練校における現地で入手可能な廃材を使用した生理用ナプキンの普及活動. 日本国際保健医療学会 第35回東日本地方会. 2021年6月5日 オンライン.
17. 渋谷文子, Dian Puspita Sari, Cut Warnaini, Arina Windri Rivarti, 竹内理恵, 野中大輔, Hamsu Kadriyan, **小林潤**. インドネシアの高等学校での包括的性教育の実施における教師の葛藤; テーマ分析による質的研究. 日本学校保健学会 第67回学術大会. 2021年11月5-7日 オンライン
18. 白井 千恵子, 野中 大輔, 竹内 理恵, **小林潤**. 医療従事者のための異文化 間能力測定尺度の日本語版作成とその信頼性・妥当性の検討. 第36回日本国際保健医療学会学術大会. 2021年11月27日, 28日 オンライン.
19. Keiji Mochida, Daisuke Nonaka, **Jun Kobayashi**, Jason Wamulume. SupplySide Barriers to the Use of Public Healthcare Facilities for Childhood Illness Care in Rural Zambia: A Study Linking Cross-Sectional Surveys. The 62nd Annual Meeting for the Japanese Society of Tropical Medicine. November 3 - 5, 2021 Online.
20. **佐藤崇範**「英訳されたパラオ熱帯生物研究所の「科学南洋」について」日本サンゴ礁学会第24回大会、オンライン、2021年11月29日

21. 齋藤歩・佐藤崇範・山永尚美「研究者資料の整理法—実験物理学者・中谷宇吉郎資料を事例としたアーカイブズ学的実践と研究」第16回日本博物科学会、オンライン、2021年6月25日
22. 新崎泰史・杉村泰彦・内藤重之「離島におけるエダマメの産地形成—沖縄県永良部島を事例として—」日本農業市場学会2021年度大会、オンライン、2021年7月4日
23. タナバット・チャンディッタウォン、鈴木規之「公共圏としての「共通空間」による国民国家周辺のコンフリクト解決の可能性—タイ深南部三県と沖縄の事例から—」第4回沖縄社会学会研究大会、沖縄・那覇（オンライン）、2021年12月4日
24. 崎濱佳代、鈴木規之「ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性—沖縄における南米系日系人と繋がるホスト社会のネットワーク—」第94回日本社会学会大会、東京・東京都立大学（オンライン）、2021年11月14日
25. Nago, A. 2022. Pigs, Virus, and Local Identity on Okinawa Island. Association for Asian Studies Annual Meeting, Honolulu. Virtual, March 24-27, 2022.
26. George MacLean, Mitsuyo Toya, Asami Nago and Serinah Tan. Insights Derived from Two Multinational COIL Exchange Contents. International Virtual Exchange Conference 2021. Virtual, October 28, 2021.
27. 波多野想・佐藤崇範「島嶼地域における対話型地域アーカイブズの創出」2021年次日本島嶼学会気仙沼大島大会、オンライン、2021年9月5日
28. 廣瀬 孝・大河内 萌 (2021)「沖縄島本部山里に分布する円錐カルストとコックピットカルスト」2021年度沖縄地理学会大会（歴史地理学会共催）、オンライン、2021年7月30日
29. Heine, M, and Fujita, Y. Estimating willingness to pay for protection from coastal flooding and storm surge in the Republic of the Marshall Islands, 日本地域学会第58回年次大会（オンライン）、2021年10月10日発表。
30. Fujita, Y., Panelist of the roundtable “An “Introduction to Island Studies”: Author Meets the Critics””, 2021 Conference of International Small Islands Studies Association, June 18th, 2021.
31. 矢野恵美「スウェーデンにおける性犯罪規定」、日本刑法学会、オンライン、2021年5月30日
32. Rintaro Ono, Jason Barnabas, Osamu Kataoka, Kaishi Yamagiwa, Takuya Nagaoka, Scott M. Fitzpatrick. When Did Early Migrants reach Pohnpei? Human Migration, Interisland Networks, and Resource Use in Eastern Micronesia. SAA 86th Annual Meeting (Online - 2021) 2021年4月15日.
33. 佐々木健志, 平良渉, 青山洋昭, 昆健志, 山極海嗣「首里城瓦の製作技術の変遷の解明」首里城再興学術ネットワークシンポジウム2021 2021年10月3日
34. 石原与四郎, 北原美優, 成瀬元, 亀島慎吾, 具志堅清大, 片桐千亜紀, 山極海嗣, 小野林太郎, 島袋綾野, 吉村和久「石垣島カラダギ洞穴に認められる津波堆積物の特徴」日本堆積学会2021年オンライン大会 2021年11月13日

## 【その他】

1. 漢那洋子, 沖縄県委託事業 令和3年度 子供科学技術人材育成事業 サイエンス・リーダー育成講座（高校生プロジェクト）「自然物理科学コース：光と物質—色と化学変化—」、2021年8月7日～9日および9月18日～20日。
2. Ginoza, A. Book Review Discussant, Marina Karides' Sappho's Legacy: Convivial Economics on a Greek Isle. The Island Feminisms Webinar Series. January 20, 2022.

3. 當山奈那「伊是名方言の文法書作成に向けて」2021 年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」研究成果報告会、2022 年 2 月 6 日
4. 當山奈那「琉球諸語の使役文」令和 3 年度 第 2 回「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」オンライン研究発表会、2021 年 12 月 12 日
5. 當山奈那「与論方言の形容詞述語文」沖縄言語研究センター定例研究会、2021 年 10 月 2 日
6. 當山奈那「琉球諸語の使役文とシム相当形式について」沖縄言語研究センター定例研究会、2021 年 6 月 5 日
7. 鳥山淳「米軍占領下の沖縄社会がかかえた葛藤」釜慶大学人文韓国プラス事業団第 3 回海外学者招聘フォーラム（オンライン開催）2021 年 9 月 15 日。
8. 鳥山淳「占領下沖縄の政治社会状況」沖縄県地域史協議会 2021 年度第 2 回研修会（オンライン開催）2021 年 12 月 3 日
9. 鳥山淳「「復帰 50 年」の沖縄をどうとらえるか」歴史教育者協議会第 40 回中間研究集会 東京労働会館、2022 年 1 月 9 日
10. 野入直美「沖縄のアメラジアン—アメラジアンスクールの過去・現在・未来」ICU MCC104「言語と社会」「琉球からの声を聴く 2」、オンライン、2021 年 5 月 20 日
11. 石原与四郎, 片桐千亜紀, 具志堅清大, 亀島慎吾, 山極海嗣, 小野林太郎「石垣島を襲った巨大津波の痕跡と人類の生き様を探る」沿岸域の先進的学際研究ワークショップ 2022、オンライン、2022 年 1 月 9 日

#### 【表彰・受賞等】

1. 坂井教郎・田代正一・内藤重之・伊村達児「食農資源経済学会学会誌賞」食農資源経済学会、2021 年 8 月 28 日



## 2. 教育活動（専任教員）

### 【琉球大学における教育活動：学部教育】

| 担当者   | 科目責任者     | 授業科目等               | 開講学部等                                    | 備考                 |
|-------|-----------|---------------------|------------------------------------------|--------------------|
| 波多野想  | 波多野想      | 観光地理学               | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | ヘリテージツーリズム論・基礎      | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 観光景観論               | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 地域・国際実践力演習Ⅰ         | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 地域・国際実践力演習Ⅱ         | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 地域・国際実践力演習Ⅲ         | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 地域・国際実践力演習Ⅳ         | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 波多野想      | 卒業研究                | 国際地域創造学部                                 |                    |
| 波多野想  | 大島順子・平野典男 | 観光地域デザインプレ演習        | 国際地域創造学部                                 | オムニバス講義<br>3回担当    |
| 波多野想  | 山極海嗣      | 島嶼地域科学入門            | 共通教育科目                                   | オムニバス講義<br>2回担当    |
| 波多野想  | 後藤 雅彦     | 地域文化資源と博物館          | 国際地域創造学部                                 | オムニバス講義<br>1回担当    |
| 藤田陽子  | 藤田陽子      | 環境経済学               | 国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科・農学部 合併授業 | 昼間主クラス             |
| 藤田陽子  | 藤田陽子      | 環境経済学               | 国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科 合併授業     | 夜間主クラス             |
| 藤田陽子  | 藤田陽子      | 島嶼経済論               | 国際地域創造学部経済学プログラム                         | 昼間主・夜間主<br>クラス合併授業 |
| 藤田陽子  | 藤田陽子      | 島嶼社会経済入門            | 国際地域創造学部（学部共通科目）                         | オムニバス講義<br>4回担当    |
| 藤田陽子  | 山極海嗣      | 島嶼地域科学入門            | 共通教育科目                                   | オムニバス講義<br>1回を担当   |
| 藤田陽子  | 清水 肇      | 総合環境学概論             | 共通教育科目（環境学副専攻）                           | オムニバス講義<br>1回を担当   |
| 鳥山 淳  | 山極海嗣      | 島嶼地域科学入門            | 共通教育科目                                   | オムニバス講義<br>1回を担当   |
| 鳥山 淳  | 阿部 小涼     | 平和論                 | 共通教育科目                                   | オムニバス講義<br>2回を担当   |
| 宜野座綾乃 | 宜野座綾乃     | ジェンダー学とインターセクショナリティ | 共通教育科目                                   |                    |
| 宜野座綾乃 | 山極海嗣      | 島嶼地域科学入門            | 共通教育科目                                   | オムニバス講義<br>1回を担当   |

|       |      |          |        |                  |
|-------|------|----------|--------|------------------|
| 宜野座綾乃 | 石原昌英 | 琉球学入門    | 共通教育科目 | オムニバス講義<br>1回を担当 |
| 山極海嗣  | 山極海嗣 | 島嶼地域科学入門 | 共通教育科目 | オムニバス講義<br>3回担当  |
| 佐藤崇範  | 山極海嗣 | 島嶼地域科学入門 | 共通教育科目 | オムニバス講義<br>1回を担当 |

【琉球大学における教育活動：大学院教育】

| 担当者  | 科目責任者         | 授業科目等           | 開講学部等               | 備考                                   |
|------|---------------|-----------------|---------------------|--------------------------------------|
| 波多野想 | 松本晶子・<br>波多野想 | 観光資源マネジメント特論    | 観光科学研究科             |                                      |
| 藤田陽子 | 藤田陽子          | 島嶼経済特論          | 人文社会科学研究<br>科博士前期課程 |                                      |
| 藤田陽子 | 藤田陽子          | 島嶼経済実践演習        | 人文社会科学研究<br>科博士前期課程 |                                      |
| 藤田陽子 | 藤田陽子          | 総合社会システム特別演習Ⅲ・Ⅳ | 人文社会科学研究<br>科博士前期課程 |                                      |
| 藤田陽子 | 鳥山 淳          | 比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ   | 人文社会科学研究<br>科博士後期課程 | 博士後期課程<br>担当教員全員<br>によるチーム<br>ティーチング |
| 鳥山 淳 | 鳥山 淳          | 比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ   | 人文社会科学研究<br>科       |                                      |
| 鳥山 淳 | 鳥山 淳          | 国際言語文化特別演習Ⅲ     | 人文社会科学研究<br>科       |                                      |
| 鳥山 淳 | 鳥山 淳          | 国際言語文化特別演習Ⅳ     | 人文社会科学研究<br>科       |                                      |
| 鳥山 淳 | 鳥山 淳          | 近現代沖縄政治社会史基礎特論  | 人文社会科学研究<br>科       |                                      |
| 鳥山 淳 | 鳥山 淳          | 近現代沖縄政治社会史応用特論  | 人文社会科学研究<br>科       |                                      |

【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生、研究生等の受入】

| 担当者  | 受入の種別・課程など                  | 研究テーマ                          | 備考                 |
|------|-----------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 波多野想 | 島嶼地域科学研究所研究生                |                                | 留学生、中華人民<br>共和国    |
| 藤田陽子 | 人文社会科学研究科博士前期<br>課程（研究指導）   | マーシャル諸島における沿岸域防<br>災対策の経済的価値評価 | 留学生，マーシ<br>ャル諸島共和国 |
| 藤田陽子 | 人文社会科学研究科博士後期<br>課程（博士論文副査） | 近世琉球後期の人口と社会経済史<br>の研究         |                    |
| 鳥山 淳 | 人文社会科学研究科博士前期<br>課程（研究指導）   | 戦後沖縄の労働史と基地労働者の<br>大量解雇        |                    |
| 鳥山 淳 | 人文社会科学研究科博士前期<br>課程（研究指導）   | 沖縄戦に動員された男子学徒の記<br>録編纂のあゆみ     |                    |

【学外における教育活動】

| 担当者   | 授業科目等   | 開講機関・学部等      | 備考 |
|-------|---------|---------------|----|
| 鳥山 淳  | 沖縄平和論   | 沖縄国際大学 総合文化学部 |    |
| 宜野座綾乃 | 英語購読 VI | 沖縄キリスト教学院大学   |    |

### 3. 社会連携（専任教員）

#### 【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

| 氏名    | 活動内容                                                     | 活動期間                   |
|-------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| 藤田陽子  | 日本島嶼学会理事                                                 | 2019 年 11 月～継続中        |
| 藤田陽子  | 日本地域学会理事                                                 | 2021 年 1 月～継続中         |
| 藤田陽子  | 環境省地球環境局 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 九州・沖縄ブロック 生態系分科会アドバイザー | 2020 年 9 月～継続中         |
| 藤田陽子  | 環境省 サンゴ礁生態系保全行動計画改定検討会委員                                 | 2021 年 9 月～継続中         |
| 藤田陽子  | 沖縄県環境基本計画検討委員会委員                                         | 2021 年 5 月～継続中         |
| 藤田陽子  | 沖縄県振興審議会総合部会専門委員および社会経済展望専門委員会委員                         | 2019 年 7 月～2022 年 3 月  |
| 波多野想  | 沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」(委員)                                  | 2021 年度                |
| 波多野想  | 沖縄県「沖縄県景観評価委員会」(委員)                                      | 2021 年度                |
| 波多野想  | 沖縄県「景観形成審議会」(委員)                                         | 2021 年度                |
| 波多野想  | 那覇市「那覇市都市景観審議会」(委員)                                      | 2021 年度                |
| 波多野想  | 浦添市「浦添市景観まちづくり審議会」(委員)                                   | 2021 年度                |
| 波多野想  | 沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」(委員)                        | 2021 年度                |
| 波多野想  | 沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」(専門委員)                                   | 2021 年度                |
| 波多野想  | 沖縄市「名勝アミムクヌイ『越来グスク』整備委員会」(副委員長)                          | 2021 年度                |
| 波多野想  | うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」(副会長)                              | 2021 年度                |
| 鳥山 淳  | 沖縄県史編集委員会委員                                              | 2020 年 4 月～継続中         |
| 鳥山 淳  | 宜野湾市史戦後編専門部会                                             | 2020 年 4 月～継続中         |
| 鳥山 淳  | 名護市史戦後生活史編専門部                                            | 2020 年 4 月～継続中         |
| 宜野座綾乃 | 女性・戦争・人権学会運営委員                                           | 2018 年度～継続中            |
| 山極海嗣  | 東南アジア考古学会編集委員                                            | 2018 年度～継続中            |
| 佐藤崇範  | 日本サンゴ礁学会 代議員                                             | 2017 年 10 月～2021 年 9 月 |
| 佐藤崇範  | 日本サンゴ礁学会 教育・普及啓発委員会委員長                                   | 2020 年 12 月～継続中        |
| 佐藤崇範  | 国立公文書館 認証アーキビスト登録                                        | 2021 年 1 月～継続中         |

#### 【国際活動・国際協力等】

| 氏名    | 活動内容                                                                                                                                                         | 活動期間           |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 藤田陽子  | アドバイザーとして招聘参加<br>Online workshop on “Establishing an Island Research Center on Hainan”, hosted by the Foreign Affairs Office of Hainan Province, P. R. China | 2021 年 4 月 2 日 |
| 宜野座綾乃 | 琉球大学国際協力事業支援委員                                                                                                                                               | 2019 年～継続中     |

【所属学会】

| 氏名    | 学会名                                                |
|-------|----------------------------------------------------|
| 藤田陽子  | 日本島嶼学会                                             |
| 藤田陽子  | 日本地域学会                                             |
| 藤田陽子  | 環境経済・政策学会                                          |
| 藤田陽子  | 日本リスク学会                                            |
| 藤田陽子  | 生活経済学会                                             |
| 波多野想  | 日本遺跡学会                                             |
| 波多野想  | 産業遺産学会                                             |
| 波多野想  | 観光学術学会                                             |
| 鳥山 淳  | 同時代史学会                                             |
| 鳥山 淳  | 日本平和学会                                             |
| 鳥山 淳  | 日本平和学会沖縄地区研究会                                      |
| 鳥山 淳  | 琉球沖縄歴史学会                                           |
| 宜野座綾乃 | American Studies Association                       |
| 宜野座綾乃 | Native American and Indigenous Studies Association |
| 宜野座綾乃 | Association for Asian Studies                      |
| 宜野座綾乃 | 女性・戦争・人権学会                                         |
| 山極海嗣  | 東南アジア考古学会                                          |
| 山極海嗣  | 沖縄考古学会                                             |
| 山極海嗣  | 日本オセアニア学会                                          |
| 山極海嗣  | 物質文化研究会                                            |

## IV. 外部資金等研究費獲得状況

---

1. 科学研究費助成事業
2. その他の競争的資金
3. 受託研究

## 1. 科学研究費助成事業（併任教員を含む）

### 【研究代表】

| 研究種目                                    | 代表者   | 期間           | 2021 年度獲得額<br>(単位：千円) |
|-----------------------------------------|-------|--------------|-----------------------|
| 研究課題名                                   |       |              |                       |
| 基盤研究（S）                                 | 狩俣繁久  | 2017～2022 年度 | 10,470                |
| 言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究                |       |              |                       |
| 基盤研究（B）                                 | 鳥山淳   | 2020～2023 年度 | 2,100                 |
| 復帰前後の沖縄における基地と開発をめぐる住民運動に関する実証的研究と資料整備  |       |              |                       |
| 基盤研究（B）                                 | 野入直美  | 2019～2021 年度 | 3,250                 |
| 戦後沖縄社会の再建と「引揚げエリート」—台湾・満洲の「専門職引揚者」を中心に  |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 宜野座綾乃 | 2019～2022 年度 | 1,040                 |
| 女性琉球舞踊指導者のアメリカ社会におけるエイジェンシーの分析          |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 越智正樹  | 2019～2021 年度 | 1,560                 |
| 辺境観光地域における社会的 DMO 成立要件に関する観光経営社会学的分析    |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 豊見山和行 | 2021～2024 年度 | 1,040                 |
| 分散した琉球古文書の統合と活用に関する研究                   |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 喜納育江  | 2019～2021 年度 | 1,560                 |
| 現代アメリカにおける不寛容の言説と境域文化による多様性の再構築に関する研究   |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 波多野想  | 2020～2022 年度 | 910                   |
| 日本植民地下台湾における金瓜石鉱山の開発と事業圏域の拡大            |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 淡野将太  | 2021～2023 年度 | 1,690                 |
| 小学校における宿題の教育的効果の縦断的検討と宿題を用いた学習指導の提案     |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 内藤重之  | 2021～2023 年度 | 1,040                 |
| 卸売市場制度「大改革」が卸売市場の流通機能と園芸産地・生産者へ与える影響の解明 |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 杉村泰彦  | 2021～2023 年度 | 1,300                 |
| 食品ロス削減と食品循環資源における中間組織体の機能と持続可能な存立基盤の解明  |       |              |                       |
| 基盤研究（C）                                 | 佐藤崇範  | 2020～2022 年度 | 600                   |
| 自然史系博物館における「研究資料」の利活用促進に向けたアーカイブズ学的研究   |       |              |                       |

|                                           |      |              |           |
|-------------------------------------------|------|--------------|-----------|
| 基盤研究（C）                                   | 鈴木規之 | 2018～2021 年度 | コロナ禍により延長 |
| ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性—                  |      |              |           |
| 基盤研究（C）                                   | 宮内久光 | 2018～2022 年度 | 650       |
| 離島地域における生活インフラの状況と多機能化による集落機能維持に関する研究     |      |              |           |
| 国際共同研究加速基金<br>(国際共同研究強化(B))               | 小林潤  | 2020～2024 年度 | 9,880     |
| 市民科学と時空間解析による COVID-19 流行時のデング熱発生リスク評価の研究 |      |              |           |
| 国際共同研究加速基金<br>(国際共同研究強化(B))               | 鈴木規之 | 2020～2024 年度 | 3,100     |
| タイの開発と市民社会形成のプロセス—プラチャーコム（住民組織）のダイナミズム    |      |              |           |
| 若手研究                                      | 當山奈那 | 2020～2023 年度 | 1,560     |
| 琉球諸語における受動・使役・授受の記述的研究                    |      |              |           |
| 若手研究                                      | 當山奈那 | 2020～2022 年度 | 1,300     |
| 琉球諸語における受動・使役・授受の記述的研究                    |      |              |           |
| 若手研究                                      | 土井智義 | 2021-2024 年度 | 1,430     |
| 米国統治下の沖縄における本土籍者の活動と「日本人意識」：1945 年～1972 年 |      |              |           |
| 研究活動スタート支援                                | 山里絹子 | 2019～2021 年度 |           |
| 米軍基地で育った「沖縄系アメリカ人」のアイデンティティ形成とディアスポラの経験   |      |              |           |

## 【研究分担】

| 研究種目                                     | 分担者  | 代表者   | 期間           | 2020 年度獲得額<br>(単位：千円) |
|------------------------------------------|------|-------|--------------|-----------------------|
| 研究課題名                                    |      |       |              |                       |
| 基盤研究（A）                                  | 廣瀬孝  | 小野寺真一 | 2018～2022 年度 | 50                    |
| 沿岸生態系と農地を相互保全する地域再循環システムに基づく流域型農業環境革新の展開 |      |       |              |                       |
| 基盤研究（B）                                  | 野入直美 | 蘭信三   | 2019～2021 年度 | 3,250                 |
| 東アジアのポストコロニアル経験を聞き取る一日韓台オーラルヒストリーの比較研究   |      |       |              |                       |
| 基盤研究（B）                                  | 矢野恵美 | 齋藤実   | 2021～2023 年度 | 5,460                 |
| 犯罪被害者支援に関する法制度等の総合的研究                    |      |       |              |                       |
| 基盤研究（B）                                  | 矢野恵美 | 深町晋也  | 2020～2023 年度 | 4,680                 |
| 児童虐待の刑事法的規制に関する領域横断型研究                   |      |       |              |                       |



|                                          |      |       |                      |            |
|------------------------------------------|------|-------|----------------------|------------|
| 基盤研究 (C)                                 | 杉村泰彦 | 坂井教郎  | 2017～2021 年度         |            |
| 甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望                      |      |       |                      |            |
| 基盤研究(C)                                  | 内藤重之 | 内藤重之  | 2021～2024 年度         | 1,040      |
| 卸売市場制度「大改革」が卸売市場の流通機能と園芸産地・生産者へ与える影響の解明  |      |       |                      |            |
| 基盤研究 (C)                                 | 淡野将太 | 越中康治  | 2020～2023 年度         |            |
| 攻撃行動に対する小学生の善悪判断の発達的变化：仮説的推論と道徳感情帰属に着目して |      |       |                      |            |
| 基盤研究 (C)                                 | 内藤重之 | 坂井教郎  | 2017～2021 年度         | 0          |
| 甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望                      |      |       |                      |            |
| 基盤研究 (C)                                 | 廣瀬孝  | 羽田麻美  | 2019～2023 年度         | 200        |
| 南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ  |      |       |                      |            |
| 基盤研究 (C)                                 | 小林潤  | 高橋謙造  | 2018～2021 年度         | 200        |
| 日本の乳幼児死亡率等改善の歴史を活用した国際保健教材の開発            |      |       |                      |            |
| 基盤研究 (C)                                 | 當山奈那 | 崎原正志  | 2021～2024 年度         | 1,560      |
| 消滅の危機に瀕した琉球諸語沖縄本部町の伝統・新設集落の方言の記述文法       |      |       |                      |            |
| 新学術領域研究(研究領域提案型)                         | 狩俣繁久 | 斎藤成也  | 2018～2022 年度         | 962        |
| 日本語と関連言語の比較解析によるヤポネシア人の歴史の解明             |      |       |                      |            |
| 挑戦的研究(開拓)                                | 山極海嗣 | 小野林太郎 | 2020～2022 年度         | 527        |
| 東南アジアへ拡散したオーストロネシア語族の土器・埋葬文化に関する学際的研究    |      |       |                      |            |
| 挑戦的研究(萌芽)                                | 小林潤  | 友川幸   | 2019～2022            | 0 (持ち越しのみ) |
| ケイパビリティ（潜在能力）の保障のためのアジアの就学前児の発育発達評価方法の開発 |      |       |                      |            |
| 挑戦的研究(萌芽)                                | 小林潤  | 斉藤美加  | 2020～2023            | 0          |
| 八重山のマラリア撲滅に果たした「サイエンス」の役割の社会学的調査と検証      |      |       |                      |            |
| 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 (B))                 | 山極海嗣 | 小野林太郎 | 2018～2022 年度<br>(延長) | 718        |
| オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究           |      |       |                      |            |
| 挑戦的研究(萌芽)                                | 山里絹子 | 小川寿美子 | 2018～2021 年度         | 390        |
| 島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究 |      |       |                      |            |

## 2. その他の競争的資金

| 担当者氏名                                                                   | 支出機関名                                                    | 期間（年月日～年月日）            | 2021 年度獲得額<br>（単位：千円） |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|-----------------------|
| 研究課題名                                                                   |                                                          |                        |                       |
| 大島順子                                                                    | 林野庁沖縄森林管理署                                               | 2021 年 4 月～2022 年 3 月  | 3,603                 |
| 「令和 3 年度希少野生生物保護管理事業（沖縄島北部国有林）」                                         |                                                          |                        |                       |
| 大湾知子                                                                    | 島嶼防災研究センター研究・活動助成                                        | 2021 年 8 月～2022 年 3 月  | 250                   |
| 沖縄県内病院における看護師による新型コロナウイルス感染症対策                                          |                                                          |                        |                       |
| 大湾知子                                                                    | 令和 3 年度地域志向トライアル経費<br>による正課科目における地域志<br>向取組:域志向活動トライアル経費 | 2021 年 6 月～2022 年 3 月  | 100                   |
| 沖縄の生活文化における伝統空手の国指定無形文化財への取り組みと健康教育への普及                                 |                                                          |                        |                       |
| 大湾知子                                                                    | ジェンダー協働推進室:<br>オーガナイザー養成支援                               | 2022 年 1 月～3 月         | 100                   |
| 排尿・排便の管理～悩みを解決しよう！～                                                     |                                                          |                        |                       |
| 小林潤                                                                     | 文部科学省                                                    | 2021～2022              | 5,000                 |
| アジア太平洋島嶼のポストコロナの健康・安全な学校に関する研究                                          |                                                          |                        |                       |
| 小林潤                                                                     | 琉球大学                                                     | 2020～2021              | 1,000                 |
| ポストコロナ社会実現研究プロジェクト太平洋島嶼における健康・安全な社会・学校づくりに関する研究                         |                                                          |                        |                       |
| 内藤重之                                                                    | 公益財団法人江頭ホスピタリティ<br>事業振興財団                                | 2021 年 4 月～2022 年 3 月  | 500                   |
| 新型コロナウイルス感染拡大による観光・外食需要の減少が食料・農業・農村に与える影響の解明－<br>わが国有数の観光地である沖縄県を事例として－ |                                                          |                        |                       |
| 矢野恵美                                                                    | 公益財団法人三菱財団人文科学研究助成                                       | 2020 年 10 月～2022 年 3 月 |                       |
| ジェンダーの視点から見た「犯罪者を親にもつ子ども」への支援と法                                         |                                                          |                        |                       |

### 3. 受託研究

| 担当者氏名                                  | 支出機関名                                        | 期間（年月日～年月日）             | 2021 年度獲得額<br>（単位：千円） |
|----------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 研究課題名                                  |                                              |                         |                       |
| 瀬口浩一                                   | 沖縄県工業連合会                                     | 2020 年 10 月～2021 年 12 月 | 660                   |
| 沖縄県工業製品の県内自給率調査—沖縄県工業の産業連関分析—          |                                              |                         |                       |
| 瀬口浩一                                   | 沖縄振興開発金融公庫                                   | 2021 年 9 月～2022 年 3 月   | 450                   |
| 「ポストコロナ時代に向けた自治体経営の状況と今後の展望」           |                                              |                         |                       |
| 波多野想                                   | 日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム） | 2020 年 10 月～2023 年 3 月  | 2,847                 |
| 対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化 |                                              |                         |                       |

## V. 研究所運営

---

1. 研究所会議
2. 所内委員会組織
3. 協議委員会
4. 共同利用・共同研究運営委員会
5. 専任教員ミーティング
6. 広報

## 1. 研究所会議

Microsoft Teams にてオンライン開催

| 月 | 日  | 会議名         | 摘 要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 14 | 第 1 回 研究所会議 | <p>議題 1. 2021 年度個人型共同利用公募要領（案）について</p> <p>協議 1. 7 階事務室保管のビデオテープ（アメリカ関係）の扱いについて</p> <p>報告 1. <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 第 2 号の発刊について</p> <p>報告 2. 文科省特別経費概算要求プロジェクト 2020 年度年次報告書の完成について</p> <p>報告 3. 『島嶼地域科学』第 2 号の発刊作業の進捗について</p> <p>報告 4. RIIS 研究活動ガイドライン（改訂版）について</p> <p>報告 5. Academic Development の定例実施</p> <p>報告 6. 2021 年度の RIIS 内業務の分担について</p> <p>報告 7. 会議文書の保管・共有について</p> |
| 5 | 12 | 第 2 回 研究所会議 | 開 催 中 止                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 6 | 9  | 第 3 回 研究所会議 | <p>議題 1. 2020 年度島嶼地域科学研究所決算（案）について</p> <p>議題 2. 2021 年度島嶼地域科学研究所予算（案）について</p> <p>議題 3. 2021 年度個人型共同利用の予備審査について</p> <p>議題 4. 客員研究員の受入について</p> <p>連絡 1. 次回研究所会議について</p>                                                                                                                                                                                                                            |
| 7 | 14 | 第 4 回 研究所会議 | <p>協議 1. 今年度の研究所広報戦略について</p> <p>協議 2. 9 月研究所会議の不開催について</p> <p>報告 1. 個人型共同利用の採択について</p> <p>報告 2. 『島嶼地域科学』編纂の進捗について</p> <p>連絡 1. 2020 年度所報について</p> <p>連絡 2. 事務職員の勤務体制について</p> <p>連絡 3. 研究推進機構構成員連絡会の開催について</p> <p>連絡 4. 客員研究員の来沖について</p> <p>連絡 5. 次回研究所会議について</p>                                                                                                                                  |
| 8 | 11 | 第 5 回 研究所会議 | <p>議題 1. 研究生の研究期間の延長について</p> <p>議題 2. 『島嶼地域科学』の査読規定および投稿規定の改訂について</p> <p>報告 1. 『島嶼地域科学』の発刊について</p> <p>報告 2. 「教育研究機能促進経費（プロセス配分）」の応募について</p> <p>連絡 1. 次回研究所会議について</p>                                                                                                                                                                                                                             |

| 月      | 日            | 会議名                    | 摘 要                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|--------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8<br>9 | 31<br>～<br>3 | 第 6 回 研究所会議<br>(メール審議) | 議題. <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> の原稿校閲に関する<br>誓約書について                                                                                                                                                                                                           |
| 10     | 13           | 第 7 回 研究所会議            | 議題 1. 2020 年度所報(案)について<br>報告 1. 令和 3 年度「教育研究機能促進経費(プロセス配<br>分)」に係るヒアリングについて<br>報告 2. 次号定期刊行物の出版準備状況について<br>報告 3. ポスドク研究員の着任について<br>報告 4. 2021 年度個人型共同利用の進捗について<br>連絡 1. 次回研究所会議について                                                                                          |
| 11     | 10           | 第 8 回 研究所会議            | 協議 1. 令和 3 年度教育研究機能促進経費(プロセス配分)の評<br>価結果について<br>報告 1. 第 1 回研究力向上改革企画部会について<br>報告 2. 第 5 回研究推進会議について<br>報告 3. 大学入学共通テスト監督者等の割当について<br>報告 4. 熱帯生物圏研究センターについて<br>連絡 1. 次回研究所会議について                                                                                              |
| 12     | 8            | 第 9 回 研究所会議            | 議題 1. 『島嶼地域科学』編集委員の交代について<br>議題 2. 令和 3 年度教育研究機能促進経費(プロセス配分)<br>の使途について<br>協議 1. 令和 3 年度全学的戦略ポストの事業評価について<br>報告 1. 研究データポリシーWG の立ち上げについて<br>報告 2. 若手研究者ウェビナーおよび国際シンポジウムの開催<br>について<br>報告 3. 文系総合研究等 602-2 の資料室整備の進捗について<br>報告 4. 客員研究員の Iwama さんの帰国について<br>連絡 1. 次回研究所会議について |
| 1      | 12           | 第 10 回 研究所会議           | 議題 1. 2022 年度併任教員継続意志確認の依頼について<br>議題 2. 客員研究員について<br>報告 1. 若手研究者ウェビナーおよび国際シンポジウムの開催<br>について<br>報告 2. 共同利用共同研究合同報告会の開催について<br>連絡 1. 次回研究所会議について                                                                                                                               |

| 月 | 日             | 会議名                     | 摘 要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---|---------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | 9             | 第 11 回 研究所会議            | <p>議題 1. 2022 年度併任教員（継続）について</p> <p>報告 1. 共同利用・共同研究運営委員会 次期（2022 年～2023 年度）委員について</p> <p>報告 2. 国立国語研究所との連携協定の期限と新たな協定締結について</p> <p>報告 3. 若手研究者ウェビナー「島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際若手研究 2022（TFIS 2022）」について</p> <p>報告 4. 国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」について</p> <p>報告 5. 共同利用共同研究合同報告会の開催について</p> <p>報告 6. 次号定期刊行物の出版準備状況について</p> <p>報告 7. 和文書籍の出版について</p> <p>連絡 1. 次回研究所会議について</p>              |
| 3 | 9             | 第 12 回 研究所会議            | <p>議題 1. 客員研究員の申請について</p> <p>議題 2. 研究生の修了判定について</p> <p>議題 3. 対話型アーカイブズ三者覚書について</p> <p>議題 4. 国立国語研究所との協定締結について</p> <p>協議 1. 2022 年度個人型共同利用・公募型共同研究について</p> <p>協議 2. 書籍の電子化について</p> <p>報告 1. 国際シンポジウムについての報告</p> <p>報告 2. 共同利用共同研究合同報告会・運営委員会の開催について</p> <p>報告 3. 令和 3 年度第 1 回島嶼地域科学研究所協議委員会開催について</p> <p>報告 4. 令和 4 年度研究所予算について</p> <p>連絡 1. 次回研究所会議について</p> <p>連絡 2. 今年度末の退職者について</p> |
| 3 | 28<br>～<br>31 | 第 13 回 研究所会議<br>(メール審議) | <p>議題. 2022 年度 客員研究員の受入について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## 2. 所内委員会組織

### (1) 共同利用・共同研究運営委員会

ZOOM にてオンライン開催

| 月 | 日             | 会議名                                  | 摘 要                                                                                         |
|---|---------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 23<br>～<br>30 | 第1回<br>共同利用・共同研究<br>運営委員会<br>(メール会議) | 議題1. 2021年度個人型共同利用公募要領(案)について                                                               |
| 6 | 18            | 第2回<br>共同利用・共同研究<br>運営委員会            | 議題1. 個人型共同利用研究の審査について                                                                       |
| 3 | 12            | 第3回<br>共同利用・共同研究<br>運営委員会            | 議題1. 共同利用・共同研究の実績について<br>議題2. 令和3年度島嶼地域科学研究所の活動について<br>議題3. 令和4年度個人型共同利用・公募型共同研究(案)<br>について |

### (2) 協議委員会

ZOOM にてオンライン開催

| 月 | 日  | 会議名       | 摘 要                                                              |
|---|----|-----------|------------------------------------------------------------------|
| 3 | 15 | 第1回 協議委員会 | 協議1. 令和3年度島嶼地域科学研究所の活動について<br>協議2. 令和4年度島嶼地域科学研究所の活動について<br>(計画) |

### (3) *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* 編集委員会

| 月 | 日  | 会議名                     | 摘 要                                                                                          |
|---|----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | 7  | 第1回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 | 議題1. <i>OJIS</i> 2021年度の編集体制<br>議題2. <i>OJIS</i> Vol.2 刊行内容<br>議題3. <i>OJIS</i> Vol.3 の予定    |
| 6 | 7  | 第2回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 | 議題1. <i>OJIS</i> と SICRI との共同編集号                                                             |
| 8 | 20 | 第3回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 | 議題1. Paper 4: 不服申し立てへの対応<br>議題2. Paper 3: 査読付き論文の翻訳投稿掲載<br>議題3. 学外校閲者誓約書<br>議題4. Scopus への掲載 |



|    |    |                           |                                                                                                                     |
|----|----|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |    |                           | 議題 5. 正式文書による査読結果通知<br>議題 6. 査読様式の改善点<br>議題 7. 研究社印刷廃業に伴う次年度以降の出版形態                                                 |
| 11 | 22 | 第 4 回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 | 議題 1. <i>OJIS</i> 第 3 号 No.1&No.2 の進捗状況<br>議題 2. 2022 年度以降の出版形態に関して（完全オンライン化を含む）<br>議題 3. 間紙のデザイン                   |
| 2  | 22 | 第 5 回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 | 議題 1. <i>OJIS</i> Vol.4 スペシャル号(プロポーザル)に関して<br>議題 2. <i>OJIS</i> Vol.4 以降の出版形態に関して<br>議題 3. <i>OJIS</i> Vol.3 アップデート |

(4)『島嶼地域科学』編集委員会

| 月  | 日     | 会議名                                   | 摘 要                                                                                                                      |
|----|-------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | 13    | 第 3 回『島嶼地域科学第 2 号』編集委員会会議             | 議題 1. 査読結果について<br>議題 2. 再査読依頼について                                                                                        |
| 6  | 14～21 | 【電子編集委員会】                             | 議題 1. 原稿の採否について                                                                                                          |
| 7  | 15    | 『島嶼地域科学 第 2 号』J-STAGE 公開              |                                                                                                                          |
| 8  | 2     | 『島嶼地域科学』編集委員会会議                       | 議題 1. 投稿規定・査読規定の改正について                                                                                                   |
| 11 | 24～27 | 【電子編集委員会】                             | 議題 1. 編集委員の交代について                                                                                                        |
| 1  | 5     | 第 1 回『島嶼地域科学第 3 号』編集委員会会議（ZOOM オンライン） | 議題 1. 原稿投稿状況について<br>議題 2. 査読者について<br>議題 3. 査読報告書について<br>議題 4. 研究ノート取り扱いについて<br>議題 5. 既定ページ数超過の取り扱いについて<br>議題 6. 総合評価について |
| 1  | 6～7   | 【電子編集委員会】                             | 議題 1 期限を超過した投稿の取り扱いについて                                                                                                  |
| 3  | 9     | 第 2 回『島嶼地域科学第 3 号』編集委員会会議             | 議題 1. 査読結果について                                                                                                           |

### 3. 専任教員ミーティング

Microsoft Teams にてオンライン開催

| 月  | 日  | 会議名                   |
|----|----|-----------------------|
| 4  | 7  | 第1回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 4  | 21 | 第2回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 4  | 28 | 第3回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 5  | 19 | 第4回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 5  | 26 | 第5回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 6  | 2  | 第6回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 6  | 9  | 第1回 臨時 専任教員・研究員ミーティング |
| 6  | 16 | 第7回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 6  | 30 | 第8回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 7  | 7  | 第9回 専任教員・研究員ミーティング    |
| 7  | 21 | 第10回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 8  | 4  | 第11回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 9  | 15 | 第12回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 9  | 29 | 第13回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 10 | 6  | 第14回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 10 | 20 | 第15回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 11 | 17 | 第16回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 12 | 1  | 第17回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 12 | 15 | 第18回 専任教員・研究員ミーティング   |
| 1  | 5  | 第19回 専任教員・研究員ミーティング   |

| 月 | 日  | 会議名                   |
|---|----|-----------------------|
| 1 | 19 | 第 20 回 専任教員・研究員ミーティング |
| 2 | 2  | 第 21 回 専任教員・研究員ミーティング |
| 2 | 16 | 第 22 回 専任教員・研究員ミーティング |
| 3 | 2  | 第 23 回 専任教員・研究員ミーティング |
| 3 | 16 | 第 24 回 専任教員・研究員ミーティング |
| 3 | 30 | 第 25 回 専任教員・研究員ミーティング |

## 4. Academic Development

Microsoft Teams にてオンライン開催

| 月  | 日  | 担当教員   | テーマ                                                         |
|----|----|--------|-------------------------------------------------------------|
| 6  | 23 | 波多野 想  | 与那国島久部良集落のランドスケープ                                           |
| 7  | 28 | 山極 海嗣  | 話題提供：考古学・人類学のパラダイムと研究紹介                                     |
| 9  | 22 | 佐藤 崇範  | 「対話型アーカイブズ」事業の背景についてーアーカイブズ学をベースとして研究データ管理（RDM）に「対話」を導入する試み |
| 10 | 27 | 宜野座 綾乃 | RIIS アカデミック・ディベロップメント話題提供                                   |
| 11 | 24 | 鳥山 淳   | これまでの研究内容と今後の資料調査活動                                         |
| 12 | 22 | 藤田 陽子  | 島嶼地域科学の研究基盤としての持続性・安定性指標とその方法論の開発                           |
| 1  | 26 | 全 員    | RIIS の今後について                                                |
| 3  | 23 | 全 員    | 研究全般                                                        |

## 6. 広報

島嶼地域科学研究所ウェブサイト <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

各種イベント、取り組みに関するお知らせ、データベース等、島嶼地域科学研究所の最新情報からこれまでに蓄積された研究成果まで幅広いコンテンツを紹介している。

2021年度は、[お知らせ]26件（前年比3.25倍）、[イベント情報]7件（前年比0.88倍）を掲載した。また、「研究プロジェクト」、「共同研究・共同利用」、「出版物」、「学術情報・資源」、その他個別ページを大幅にリニューアルすることでユーザビリティを向上し、情報発信もSNSとの連携を強化するなど、研究所の情報・プレゼンスの向上に向けた作業を実施した。

2021年度のウェブサイトのページビュー数は38,360回（前年比41.3%増）、利用ユーザー数は6,964人（前年比52.6%増）であった。ウェブページのリニューアルなどに伴い利用者数が順調に増加している傾向にある。なお、最も閲覧数が多かったのは5月14日（1091回）で、次いで7月2日（720回）であった。5月は個人型共同利用の募集開始や、沖縄関係外交資料コレクションに「米空軍 第313航空師団 歴史報告書」を追加した時期で、6月末～7月初めはOJISの投稿募集の告知が開始された時期であったため、こうしたコンテンツに注目が集まったものと考えられる。こうしたデータを基に、2022年度のより発展的な情報告知とプレゼンスの向上へと繋げていきたいと考えている。



島嶼地域科学研究所公式フェイスブック <https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/>

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開した情報をベースに情報を更新している。海外の方向けに、日本語と英語の両方で情報を発信している。2021年度は、62件（前年比2.95倍）を新規投稿した。

フォロワーは104人（2022年7月現在）で、Facebookで最もリーチ数が高かったのは国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」（2月23日開催）の英語版告知であった。また、次点はOkinawan Journal of Island Studies Volume 3, Number 1, 「小島嶼の文化と遺産への学際的アプローチ」号の発刊告知であった。ウェブサイト 비해国際的な注目度が高いと考えられるのに加え、HPとは異なりFacebookなりに必要とされている情報の種類が特殊であることが想定できる。



### 島嶼地域科学研究所公式ツイッター [https://twitter.com/Riis\\_Ryukyu](https://twitter.com/Riis_Ryukyu)

島嶼地域科学研究所では2021年7月よりTwitterアカウントを新たに開設した。こちらでも国内外へ向けて日英両言語で情報を発信している。また、Twitterではインタラクティブ性も考慮して、ちょっとした研究活動などの情報を発信するなど実験的な活動にも取り組んでいる。

2021年度は開設当初であったこともあり27件の投稿に留まった。なお、最も「いいね」や「リツイート」が多かったのはレクチャーシリーズの「奇跡の島々(?)：先史時代の奄美・沖縄諸島」(高宮広土氏講演)の告知であった。こちらは日本語告知への反応が多く、Facebookとは異なる運用の仕方や可能性が考えられる。フォロワー数は61人(2022年7月1日現在)となっている。





# 付属資料



1. **RIIS** レジリエンス&バイタリティプロジェクト・レクチャーシリーズ **2021** ポスター
2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 **2022(TFIS2022)** ポスター
3. 国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」ポスター



2021 LECTURE SERIES 1ST LECTURE

# ジェンダーと食による 島嶼性の保持



講師：Marina Karides 先生  
ハワイ大学マノア校

ハワイ大学マノア校の地理学・環境学教授。研究では、島嶼地域の社会、特にジェンダー、人種、民族、セクシュアリティの構築が島々によって形成されているか、また、島の空間がどのように社会のニーズと自然環境に沿った代替的な経済のモデルを提供しているかを検証している。これまで、学術的分野における雇用やグローバルな社会運動における公平性に関する研究を発表してきた。著書に、*Sappho's Legacy: Convivial Economics on a Greek Isle* (SUNY Press)がある。

本論では、アイランド・フェミニストの視点から、ギリシャのレスボス島における移動と地域の食料生産の関係性を検証する。ギリシャ・アテネのような大都市へ移住するために島を離れる島嶼ディアスポラの人々は、多くの場合、島の農業を継続しながら、島の食料を移住先でも確保するすべを担保しようとしている。海や太陽を求めるこれまでのツーリズムは、島に負の環境的影響をもたらすが、近年のフード・ツーリズムの現象は、環境に有益な持続的食料生産を推進するだろう。本講演では、レスボスの女性協同組合のエスノグラフィやインタビュー資料を共有し、島人の島への愛着心や、島嶼地域の地理的領域が、どのようにレジリエントな食料システムの維持に寄与するかについて論じる。

**開催日：2021年6月28日（月）**

**時間：14:30～16:00**

**言語：英語（逐次通訳あり）**

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為Zoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。

TEL: +81-98-895-8475

mail: [riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp](mailto:riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp)

HP: <http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



Research Institute for Islands and Sustainability  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS  
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN





## 2021 LECTURE SERIES 2ND LECTURE

# 奇跡の島々(?)：先史時代の 奄美・沖縄諸島



講師：高宮 広土 先生

(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 教授)

1997年University of California, Los Angeles Dept. of Anthropology, Ph.D.。人類学博士 (UCLA)。1993札幌大学女子短期大学部大学講師を経て、1998年札幌大学大学文化学部助教授、2002年同大教授。2015年より鹿児島大学国際島嶼教育研究センター教授。2002年沖縄文化研究賞、2007年沖縄研究奨励賞受賞。主な論文に"An extremely unusual case in human history: prehistoric hunter-gatherer adaptation to the islands of the Central Ryukyus(Amami and Okinawa archipelagos), Japan"など多数。(鹿児島大学HPより引用)

奄美・沖縄諸島における100年以上の先史学的調査により、この地域の文化史はかなり明瞭になってきている。一方、島を取り扱う「島の先史学」は地中海やオセアニアなどの島々がリードしてきており、これらの島々のデータを比較検証することにより、「定説」的な仮説も提唱されている。奄美・沖縄諸島の近年までに蓄積された先史学的データは質・量的には他の島々のデータに匹敵すると思われる。しかし、奄美・沖縄諸島の先史学が「世界の中」で検証されることはほとんどなかった。奄美・沖縄諸島の先史時代を世界の中で検証すると他地域とは異なる実態が見えてきている。すなわち「定説」を否定するデータである。このデータは奇跡的とも思われる。

開催日：2021年11月9日(火)

時間：16:20～17:50

言語：日本語

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為にZoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。

TEL: +81-98-895-8475

mail: [riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp](mailto:riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp)

HP: <http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



RIIS

Research Institute for Islands and Sustainability  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS  
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN



## 2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2022(TFIS2022) ポスター



# Toward the Future of Island Studies: Networking International Young Scholars 2022

The Research Institute for Islands and Sustainability (RIIS) at University of the Ryukyus will hold an international research conference to share the research results of young researchers conducting research on the issues of island regions. We welcome participants from diverse academic backgrounds.

### Part 1 : Keynote (10 : 10~11 : 40)

## “Okinawa’s Blue Clerks: Farm Household Survey Legers and Their Silences”

**Dr. Wendy Matsumura**

Associate Professor of Japanese History, University of California, San Diego



The title of this talk (and project) is indebted to Dionne Brand's *The Blue Clerk: Ars Poetica in 59 Versos* (2018), a work that has helped me radically rethink the way that I approach the archives of prewar Okinawa's farm households. I discuss what Brand's work offers to my reading of a set of documents called the Farm Household Survey, as well as what it does not offer by virtue of its situatedness within a long genealogy of intellectual work within Black diasporic studies. Following that, I lay out the specific sets of problematics within Okinawa studies that I seek to engage, focusing primarily on what historical narrative can (and cannot) offer for making sense of the lives of people who appear fleetingly in these materials.

Language: Japanese (No English translation will be provided)

### Part 2 : Paper Presentations

Session A (12 : 40~14 : 20) The Actuality of Islands

Session B (14 : 30~16 : 10) Multidisciplinary approaches to islands

**Date: Sunday, January 23, 2022 (JST)**

**Time: 10 : 00am-4 : 20pm(JST)**

**The conference will be held using Zoom (Webinar)**

Advance registration is required (No registration fees).

Registration Form (QR code) : <https://forms.gle/7CfC6EHebtS3vSny9>

The deadline for applications is Sunday, January 16, 2022, at 5:00 p.m(JST).



Contact us

mail: [riis.wakatewebinar@gmail.com](mailto:riis.wakatewebinar@gmail.com)

Organization committee of TFIS 2022: Tomoyoshi Doi, Kei Kohagura (RIIS Project Postdoctoral Fellow)

This lecture is part of the Interisland resilience and vitality project funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan.



# Toward the Future of Island Studies: Networking International Young Scholars 2022

Sunday, January 23, 2022 | 10 : 00 - 16 : 20 (JST)

## Program

### 【 Opening Remarks 】 10 : 00 – 10 : 10

So Hatano (Director, Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus)

### 【 Keynote 】 10 : 10 - 11 : 40

Language: Japanese ( No English Translation will be provided )

#### **Dr. Wendy Matsumura**

Associate Professor of Japanese History, University of California, San Diego

**“Okinawa’s Blue Clerks: Farm Household Survey Legers and Their Silences”**

### 【 Paper Presentations 】 12 : 40 – 16 : 10

Language: Japanese ( No English translation will be provided )

#### **Session A 12:40 - 14:20 The Actuality of Islands**

Chair: Kei Kohagura (Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus)

Atsuko Itokazu (Graduate School of Social Sciences, Hitotsubashi University)

“Building a Child Poverty Policy in Okinawa

: The linkage between financial support by the government and of citizen activities”

Kikoto Zamami (Graduate School of Letters, Osaka University)

“Military land seizure, migration, and environmental destruction in the development of the northern region of Okinawa Island in the late 1950s”

Hanae Okamoto (Graduate School of Health Sciences, University of the Ryukyus)

“School responses to COVID-19 and their challenges in Asian and Pacific islands”

#### **Session B 14:30~16:10 Multidisciplinary approaches to Islands**

Chair: Tomoyoshi Doi (Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus)

Shuhei Fujimoto (Graduate School of Human and Social Science, University of the Ryukyus)

“Education and Rights for Okinawan ‘Mixed-blood children’: Reading ‘Reversion’ from Seiji Shimota's ‘Akemodoro’”

Shihoko Onaga (Graduate School of Human and Social Science, University of the Ryukyus)

“A Study of Sadako Yamazato’s ‘Soul Trip’

: Questioning the Impossibility of Self-Determination in Neoliberalism”

Erina Shimooka (University of Toulouse Jean Jaurès, Department of foreign languages)

“Comparison of the preamble of the French-Ryukyu convention: Reflection on the difference in understanding between the Ryukyu Kingdom and France”

### 【 Closing Remarks 】 16 : 10– 16 : 20

Ayano Ginoza (Associate Professor, Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus)

Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus  
Senbaru 1, Nishihara, Nakagamigun, Okinawa 903-0213, Japan 【Tel】 (098) 895-8475 【Fax】 (098)895-8308  
Organization Committee 【E-mail】 [riis.wakatewebinar@gmail.com](mailto:riis.wakatewebinar@gmail.com) 【URL】 <http://riis.akr.u-ryukyu.ac>

### 3. 国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンスとバイタリティ」ポスター

2021年度 琉球大学島嶼地域科学研究所 国際シンポジウム

## 島嶼地域における レジリエンスとバイタリティ

琉球・沖縄という場所から  
島嶼の知とレジリエンスについて再考します



「人新世アイランズ：  
島嶼研究における批判的課題」  
ニューキャッスル大学 島嶼研究学科教授  
ジョナサン・プー 先生

「世界自然遺産と自然への恩返し」

琉球大学名誉教授  
土屋 誠 先生



日時：2022年2月23日（水）18：00～ 20：15（日本時間）

開催方法：ZOOMウェビナー ※参加費無料、事前申込必須

参加申し込みは、[HTTPS://FORMS.GLE/6QM7OQIJNZR9VIXX9](https://forms.gle/6QM7OQIJNZR9VIXX9)

※QRコードからのご登録可能。

※お申し込みは、前日まで可能です。

日英同時通訳有り



TEL: 098-895-8475

E-mail: [riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp](mailto:riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp) HP: <http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/>

Twitter: [https://twitter.com/Riis\\_Ryukyu](https://twitter.com/Riis_Ryukyu)

本シンポジウムは、文部科学省特別経費概算要求プロジェクト「島嶼地域科学の分野横断型  
研究展開による国際的共同研究拠点形成」の一環として開催されます。



Research Institute for Islands and Sustainability  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS  
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN





島嶼地域科学研究所 所報 2021年度

---

2022 年 10 月 1 日 発行

編集・発行

国立大学法人 琉球大学

島嶼地域科学研究所

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1

電話:098-895-8475 Fax: 098-895-8308

<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>